

教育研究業績書

2025年10月20日

所属：生活環境学科

資格：教授

氏名：末弘 由佳理

| | |
|----------------|--|
| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
| 生活科学 生活科学一般 | 生活素材 |
| 学位 | 最終学歴 |
| 博士（学術），修士（教育学） | 京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 先端ファイブプロ科学専攻 博士課程 修了 |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|--------------------------------------|----------------------|--|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 教育方法の実践例 | | |
| 1. 第8回 研究成果の社会還元促進に関する発表会&異分野交流カフェ | 2024年2月 | 地域連携に関わらずシンプルに「教員の研究」を発表する機会とし、10人の研究発表者からさまざまな分野の発表がなされた。 「武庫川女子大学作「基礎縫い」ICT教材-10年の歩みと今後の展望-」との演題で発表を行った（共同研究者：教育学科 吉井美奈子）。 |
| 2. 令和4年度後期 授業改善奨励制度「授業改善奨励賞」受賞 | 2023年3月 | より良い授業となるよう工夫と実践に取り組んだ教員に対して授与されるものであり、この制度は、日々の教育活動の中で授業改善につながる、より良い授業方法の工夫と実践を行っている教員の見えない教育活動の部分に関する可視化を図り、その貢献度を把握し、奨励することを目的としている。 表彰された授業名「ドラフティングCAD実習Ⅱ」（大学生活環境学科2年生開講） |
| 3. 生活環境学科FD研究会 | 2022年11月 | 生活環境学科では、各教員から授業の工夫についてのショートスピーチ（1回に2名が発表）を行うFDを行っている。令和4年度には、その拡大版として、「被服・アパレル教育におけるICT教材-コロナ禍を通して変化する活用法及び使用実態-」との題名で、末弘が演者と務めた（20分）。 |
| 4. ICT 教材を活用した対面及びハイブリッド授業の構築に関する研究会 | 2022年9月1日～2024年2月28日 | 武庫川女子大学では、平成28年度よりFD推進委員会の下部組織として、学科の枠を超えた有志で集まる「授業改善のためのFD研究会（FD研究会）」を開設している。この研究会制度は、授業内容や方法、評価をはじめとするFDに係る様々なテーマで研究会活動を行い、その成果を学内に還元することでより効果的なFD活動を大学全体として展開することを目指すものである。 「ICT 教材を活用した対面及びハイブリッド授業の構築に関する研究会」は生活環境学科の末弘由佳理（研究代表者）、教育学科の井美奈子により構成されている。 |
| 5. 第1回 研究成果の社会還元促進に関する発表会 | 2017年2月 | 武庫川女子大学 教育研究社会連携推進室では、企業や自治体等と先生方の研究成果をつなげたいとの考えで2016年度から発表会を開催している。第1回となる発表会において、室長より依頼を受け、「アパレルCADを用いた半自動作図の提案」との演題で発表を行った（共同研究者：生活環境学科 池田仁美）。室長からは生活環境学研究誌の論文を読み、発表を依頼したとのことであった。 |
| 6. 第73回NDKファッションデザインコンテスト出品作品の指導 | 2016年9月 | 本学（武庫川女子大学）から2名の学生がNDKファッションデザインコンテストに通過し、実物制作を行った。 |
| 7. 産学協同事業「産学共同リアル企画」企画及びプレゼン指導 | 2015年6月 | コッカ株式会社による課題「「童話モチーフの雑貨用テキスタイルデザイン企画」に本学（武庫川女子大学）の学生が7名参加し、企画及びプレゼンテーションを行った。 |
| 8. 2014「げんべい」ビーチサンダルデザインコンテスト | 2013年12月 | 西宮阪急百貨店より依頼を受け、ビーチサンダルデザ |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|---|----------|--|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 教育方法の実践例 | | |
| ト in 西宮阪急一武庫川女子大学×げんべい商店 コラボレーション企画—出品作品の指導 | | インコンテストに武庫川女子大学の学生が応募し、その指導を担当した。投票の結果、上位3名の作品が商品化され、2014年3月より、2014年夏物として西宮阪急で販売された。 |
| 9. 第70回NDKファッションデザインコンテスト 第16回「ヤングダイナミックシーン」出品作品の指導 | 2013年9月 | 本学（武庫川女子大学）から3名（デザインコンテスト1名、ヤングダイナミックシーン2名）の学生が通過し、実物制作を行った。ヤングダイナミックシーン部門において、1名の学生が大阪市長賞を頂いた。 |
| 10. 産学協同事業「産学共同リアル企画」企画及びプレゼン指導 | 2013年4月 | 伊藤寛株式会社による課題「秋冬手袋のデザイン企画」に本学（武庫川女子大学）の学生が4名参加し、企画及びプレゼンテーションを行った。 |
| 11. 産学協同事業「産学共同リアル企画」企画及びプレゼン指導 | 2012年11月 | グロリア株式会社による課題「プリントデザイン企画（レギンス&フットカバー用）」に本学（武庫川女子大学）の学生が2名参加し、企画及びプレゼンテーションを行った。 |
| 12. 第69回NDKファッションデザインコンテスト 第15回「ヤングダイナミックシーン」出品作品の指導 | 2012年9月 | 本学（武庫川女子大学）から4名（デザインコンテスト1名、ヤングダイナミックシーン3名）の学生が通過し、実物制作を行った。 |
| 13. 産学協同事業「産学共同リアル企画」企画及びプレゼン指導 | 2011年11月 | 株式会社コットンピークによる課題「デニム素材2次加工・製品リメイク企画」に本学（武庫川女子大学）の学生が1名参加し、企画及びプレゼンテーションを行った。 |
| 14. 産学協同事業「産学共同リアル企画」企画及びプレゼン指導 | 2011年9月 | 「産学共同リアル企画」とは、企業が大学・専門学校に課題を出し、学生からアイデアを募る取り組みである。 株式会社エターナリープレイズによる課題「レディース向け服飾小物類の商品企画」に本学（武庫川女子大学）の学生が3名参加し、企画及びプレゼンテーションを行った。 |
| 15. 第68回NDKファッションデザインコンテスト 第14回「ヤングダイナミックシーン」出品作品の指導 | 2011年9月 | 本学（武庫川女子大学）から3名（ヤングダイナミックシーン3名）の学生が通過し、実物制作を行った。ヤングダイナミックシーン部門において、1名の学生がNDK賞を頂いた。 |
| 16. 第67回NDKファッションデザインコンテスト 第13回「ヤングダイナミックシーン」出品作品の指導 | 2010年9月 | 本学（武庫川女子大学）から2名（デザインコンテスト1名、ヤングダイナミックシーン1名）の学生が通過し、実物制作を行った。 |
| 17. 第66回NDKファッションデザインコンテスト 第12回「ヤングダイナミックシーン」出品作品の指導 | 2009年9月 | 本学（武庫川女子大学）から2名（デザインコンテスト1名、ヤングダイナミックシーン1名）の学生が通過し、実物制作を行った。デザインコンテストに通過した1名は本学の卒業生（2009年3月卒）である。デザインコンテスト部門において、1名の学生がNDK賞を頂いた。 |
| 18. 食の祭典「'09食博覧会・大阪」におけるファッションショー「食と色彩」の企画及び制作指導 | 2009年5月 | 食にちなんだファッションショー「食育ファッションショー」を企画、デザイン・制作を行い、モデルやアナウンスも全て学生が担当した。生活環境学科の学生が中心となり、47名で作り上げたファッションショーであり、その指導を行った。 |
| 19. 第65回NDKファッションデザインコンテスト 第11回「ヤングダイナミックシーン」出品作品の指導 | 2008年9月 | 本学（武庫川女子大学）から2名（デザインコンテスト1名、ヤングダイナミックシーン1名）の学生が通過し、実物制作を行った。 |
| 20. KOBE KIDS FESTA 2007 キッズドリームウェアファッションショー出品作品指導 | 2007年11月 | 7名3組の学生が参加し、その制作指導を行った。 |
| 21. 第64回NDKファッションデザイン コンテスト 第10回「ヤングダイナミックシーン」出品作品の指導 | 2007年9月 | 7名（デザインコンテスト2名、ヤングダイナミックシーン5名）の学生が通過し、実物制作を行った。 |
| 22. KOBE KIDS FESTA 2006キッズドリームウェアファッションショー出品作品指導 | 2006年11月 | 9名3組の学生が参加し、その制作指導を行った。 |
| 23. 第63回NDKファッションデザインコンテスト 第9回「ヤングダイナミックシーン」出品作品の指導 | 2006年9月 | 12名（デザインコンテスト2名、ヤングダイナミックシーン10名）の学生が通過し、実物制作を行った。ヤングダイナミックシーン部門において、2名の学生がそ |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|---|------------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 教育方法の実践例 | | |
| 24. 第62回NDKファッションデザインコンテスト 第8回「ヤングダイナミックシーン」出品作品の指導 | 2005年9月 | それぞれ大阪市長賞、NDK賞を頂いた。 未来のデザイナーを育成する試みとして、デザイン画を出品し、審査に通過した者が実物の制作を行い、ファッションショーに出品することができるコンテストである。ショー当日公開審査が行われる。9名（デザインコンテスト3名、ヤングダイナミックシーン6名）の学生が通過し、実物制作を行った。 |
| 25. KOBE KIDS FESTA 2005 キッズドリームウェアファッションショー出品作品の指導 | 2005年7月 | 子どもがデザインした夢の洋服をファッション系の学生が形にし、デザインした子どもがモデルを務める形のファッションショーである。4名2組の学生が参加し、その制作指導を行った。 |
| 2 作成した教科書、教材 | | |
| 1. アパレルCAD教育における教材の作成Ⅱ | 2018年7月～2023年3月 | アパレルCADシステムのリニューアルに伴い、アパレルCAD教育における教材の作成Ⅰを元に新ソフトに適合した解説に変更した。併せて、新しく導入した3Dバーチャルフィッティングソフトを用いた教材を作成した。また、演習問題を増やすなど、学生の力量向上を目指す上での改定を行った。 |
| 2. (武庫川女子大学学習支援システムによる) デジタル教材の開発Ⅶ (左利き者用の基礎縫い) | 2018年4月～現在 | 既に作成した基礎縫いデジタル教材に関して、中学校教員から左手で作業している動画の要望があり、これまでに撮影した動画を反転することで左利き者用の動画を作成することができた。現在は、要望のあった中学校においてのみ使用中であるが、今後は広く使用できるようHPにアップ用のデータを作成中である。 |
| 3. 武庫川女子大学学習支援システムによるデジタル教材の開発Ⅵ (改訂版基礎縫い) | 2016年3月～6月 | 既に作成した基礎縫いデジタル教材に関して、使用した学生へアンケート調査を行った。また、現職中学校の家庭科教員からの意見を基に再撮影を行い、中身を一新した。布の色、背景色等より見易いものを素材に用いたことや、イラストやテキストへの加筆、画面へのテロップ挿入、音声の再聞機能等を付加した。 |
| 4. アパレルCAD教育における教材の作成 | 2016年1月20日7 | 武庫川女子大学において開講しているアパレルCAD関連科目において使用するテキストの作成を行った。この科目のテキストとして採用可能な書籍は2冊程度出版されているが、いずれも本学のカリキュラム及び学生に即した内容とは言えない。基礎科目からの学びを経て、それらに即した内容で進めることができるよう基礎科目において身につけた内容をベースに複数のアイテムをCAD上で展開できる力を養えるように配慮してテキストを作成した。 |
| 5. 武庫川女子大学学習支援システムによるデジタル教材の開発Ⅴ (基礎縫い) | 2012年9月～2013年7月 | 武庫川女子大学情報教育研究センター協力の下に学習支援システム(μCam)用の教材を作成した。「基礎縫い」十数種を動画撮影し、音声、イラスト、写真、解説等を加えたものである。学生にとって教科書のみでは難しいと感じる縫い方が基礎縫いの中に存在する。これらを動画で学ぶことで理解を促し、間違いを減らす一助となることを期待し、製作にあたった。 |
| 6. 武庫川女子大学学習支援システムによるデジタル教材の開発Ⅳ (原型製図の方法：袖編) | 2011年11月～2012年4月 | 「武庫川女子大学学習支援システムによるデジタル教材の開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で作成したパンツ、スカート、身頃原型に引き続き、袖原型においても同じくe-learning教材を作成した。パンツやスカートと同様に有効な教材であると言え、学生にとって有効な教材として活用されることを期待している。 |
| 7. 武庫川女子大学学習支援システムによるデジタル動画教材の開発Ⅲ (原型製図の方法：身頃原型編) | 2011年10月～2012年4月 | 「武庫川女子大学学習支援システムによるデジタル教材の開発Ⅰ・Ⅱ」で作成したパンツ、スカートに引き続き、身頃原型においても同じくe-learning教材を作成した。パンツやスカートと同様に有効な教材であると言え、学生にとって有効な教材として活用されることを期待している。 |
| 8. 武庫川女子大学学習支援システムによるデジタル動画教材の開発Ⅱ (原型製図の方法：スカート編) | 2011年9月～2012年4月 | 「武庫川女子大学学習支援システムによるデジタル教材の開発Ⅰ」で作成したパンツに引き続き、スカート |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|---|------------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 2 作成した教科書、教材 | | |
| 9. 武庫川女子大学学習支援システムによるデジタル動画教材の開発Ⅰ（原型製図の方法：パンツ編） | 2011年3月～11月 | においても同じくe-learning教材を作成した。パンツ同様に有効な教材であると言え、学生にとって有効な教材として活用されることを期待している。 |
| 10. パターンメイキングのデジタル教材の開発Ⅲ（原型製図の方法：パンツ編） | 2009年10月 | 「パターンメイキングのデジタル教材の開発Ⅲ」で作成したデジタル教材を基に発展教材として、武庫川女子大学情報教育研究センターの学習支援システム（Mmoa）用の教材を情報教育研究センター協力の下に作成した。パワーポイントを用いて作成したデジタル教材を基にした動画に、音声、各部の名称や拡大図、計算法の解説等を加えたものである。学生がより理解を深めるための復習、欠席者の指導に有効なe-learning教材として活用することを目的としている。 |
| 11. パターンメイキングのデジタル教材の開発Ⅱ（原型製図の方法：スカート編） | 2009年10月 | 「パターンメイキングのデジタル教材の開発Ⅰ・Ⅱ」で作成した身頃原型に引き続き、パンツにおいても同じくデジタル教材を作成した。身頃、スカートと同様に有効な教材であると言える。 |
| 12. パターンメイキングのデジタル教材の開発Ⅰ（原型製図の方法：身頃原型編） | 2009年4月 | 「パターンメイキングのデジタル教材の開発Ⅰ」で作成した身頃原型に引き続き、スカートにおいても同じくデジタル教材を作成した。学生の理解度が個人個人で異なる中、反復して説明することが容易であるデジタル教材は、学習効果の高いものとして活用できると言える。 |
| 13. パターンメイキング教育における教材の作成 | 2006年04月 | 被服構成学の講義及び実習の中で、「原型」の書き方を学ぶことが多いが、パターン製図を初めて行う学生にとって、理解に時間を要することが多く、反復しての説明が求められる。これまでは黒板に1.5倍大で書いて説明を行っていたが、同一箇所の再説明を行う際に、デジタル教材の場合には繰り返し提示することが容易である。そこで、power pointを用いて身頃原型の書き方を説明するデジタル教材の開発を試みた。学生からの評価も高く、より理解を促す手段の一つとして活用できると考える。 |
| 14. アパレルCAD教育における教材の作成 | 2005年04月～2008年3月 | 被服構成学を学ぶ上で、パターンメイキングは必須内容である。パターンに関しては大学で初めて学ぶ者が多く、学生の理解度は高くない現実がある。そこで、従来使用している文化式身頃原型（1.5倍）を基に、ショルダー、ネック、サイド、ウエスト、バスト位置に切替線を入れ、各パーツ毎に異なるカラーを用いた原型を作成した。これにより、パターンメイキングの基礎が理解できると考える。 |
| | | 現在、被服構成学においてアパレルCAD教育は不可欠なものとなっている。アパレルCADに関する書籍は複数執筆されているものの、東レACS株式会社のシステムにおけるものがほとんどであり、本学が採用しているシステム（株式会社島精機製作所）の解説に値するものは発行されていない。そこで、教科書に代わるCADシステムの手順書を教材として作成した。 |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 1. 尼崎市小学校家庭科教育研究会 実技研修会 | 2010年7月 | 尼崎市立の小学校教員を対象（参加人数：約30名）として、「小学校家庭科教育に役立つ製作活動・実技研修」と題して、被服製作実習の実技研修を行った。手縫いを駆使し、リサイクルで製作することのできるものとの要望があり、フェイスタオルを加工して製作する『洋服型「手拭きタオル」』を提案し、実技指導の講師を務めた。 |
| 2. 尼崎市小学校家庭科教育研究会 実技研修会 | 2009年8月 | 尼崎市立の小学校教員を対象（参加人数：約30名）として、「小学校家庭科教育に役立つ製作活動・実技研修」と題して、被服製作実習の実技研修を行った。手縫いを駆使して製作することのできるものとの要望があり、針金ハンガーを軸として用い、キルト綿と布を |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|--|------------------------|--|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 3. アパレルCADの説明会 | 2006年3月 | 巻きつけ、縫い留めることで製作する「布製ハンガー」を提案し、実技指導の講師を務めた。 兵庫県立相生産業高等学校の家庭科教員4名を対象としてアパレルCADシステムの説明、講習を行った。高等学校へのCADの導入を検討をしていることから、依頼を受けた。 |
| 4 その他 | | |
| 1. 司書課程委員 | 2024年 | |
| 2. 科学研費委員会専門委員 奨励研究部会第1180小委員会V（教科教育学および初等中等教育学関連） | 2020年12月1日～2021年11月30日 | 科学研究費助成事業（科研費）における2段階書面による審査を行った。担当した部会は、奨励研究部会であり、提出される申請書は教科教育学及び初等中等教育学関連分野の内容である。 |
| 3. 公益財団法人衣笠繊維研究所 平成31年度 外部連携研究の外部審査委員 | 2019年1月9日～2019年5月31日 | 公益財団法人 衣笠繊維研究所では、衣笠繊維賞を公募しており、繊維学およびその基礎科学分野に関連する部門において、個人または団体に衣笠繊維賞を授与される。外部審査員は、理事会で審査された申請書類の内容を、外部の学識経験者・専門家の立場から受賞候補者の審査を行った。 |
| 4. 学校教育センター委員 | 2016年～2023年 | |
| 5. 平成27年度使用尼崎市尼崎双星高等学校教科用図書選定協議会（副会長） | 2014年6月～9月 | 平成27年度使用教科書の選定として、商業学科、ものづくり機械科、電気情報科、普通科それぞれの学科において検討を行った。なお、協議会委員は、元尼崎市尼崎産業高等学校長、尼崎双星高等学校PTA会長、尼崎双星高等学校PTA副会長、尼崎双星高等学校長・教頭・教務部長、末弘の計7名である。 |
| 6. 平成26年度使用尼崎市尼崎双星高等学校教科用図書選定協議会（副会長） | 2013年6月～9月 | 平成26年度使用教科書の選定として、商業学科、ものづくり機械科、電気情報科、普通科それぞれの学科において検討を行った。なお、協議会委員は、元尼崎市尼崎産業高等学校長、尼崎双星高等学校PTA会長、尼崎双星高等学校PTA副会長、尼崎双星高等学校長・教頭・教務部長、末弘の計7名である。 |
| 7. 平成25年度使用尼崎市尼崎双星高等学校教科用図書選定協議会（副会長） | 2012年6月～9月 | 平成25年度使用教科書の選定として、商業学科、ものづくり機械科、電気情報科、普通科それぞれの学科において検討を行った。なお、協議会委員は、元尼崎市尼崎産業高等学校長、尼崎双星高等学校PTA副会長2名、尼崎双星高等学校長・教頭・教務部長、末弘の計7名である。 |
| 8. 平成24年度使用尼崎市尼崎双星高等学校教科用図書選定協議会（副会長） | 2011年6月～9月 | 平成24年度使用教科書の選定として、商業学科、ものづくり機械科、電気情報科、普通科それぞれの学科において検討を行った。なお、協議会委員は、元尼崎市尼崎産業高等学校長、尼崎産業高等学校育友会会長、尼崎産業高等学校育友会副会長、尼崎双星高等学校長・教頭・教務部長、末弘の計7名である。 |
| 9. 平成24年度使用尼崎市尼崎産業 高等学校教科用図書選定協議会（副会長） | 2011年6月～9月 | 平成24年度使用教科書の選定として、商業科、電気科、機械科の3学科において検討を行った。各教科担当者から第一希望・第二希望の教科書が示され、選定理由として、生徒のレベルに合致していること等が挙げられた。なお、協議会委員は、元尼崎市尼崎産業高等学校長、育友会会長、育友会副会長、現校長・教頭・教務部長、末弘の計7名である。 |
| 10. 平成23年度使用（仮称）尼崎市尼崎双星高等学校教科用図書選定協議会（会長） | 2010年6月～9月 | （仮称）尼崎市尼崎双星高等学校は、平成23年4月開校予定であり、尼崎東高等学校と尼崎産業高等学校とが統合された普通科と専門学科を併設している新しい高等学校である。使用教科書の選定として、各学科において検討を行った。なお、協議会委員は、尼崎東高等学校PTA会長、尼崎産業高等学校育友会会長、尼崎東高等学校長、尼崎産業高等学校長、尼崎東高等学校教頭、尼崎産業高等学校教頭、末弘の計7名である。 |
| 11. 平成23年度使用尼崎市尼崎産業 高等学校教科用図書選定協議会（副会長） | 2010年6月～9月 | 平成23年度使用教科書の選定として、商業科、電気科、機械科の3学科において検討を行った。各教科担当 |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|--------------|-------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 4 その他 | | |
| 12. 情報処理教育委員 | 2009年～2012年 | 者から第一希望・第二希望の教科書が示され、選定理由として、生徒のレベルに合致していること等が挙げられた。なお、協議会委員は、元尼崎市尼崎産業高等学校長、育友会会長、育友会副会長、現校長・教頭・教務部長、末弘の計7名である。 |

| 職務上の実績に関する事項 | | |
|-----------------------|----------|----------------------|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 資格、免許 | | |
| 1. 学校図書館司書教諭 | 2000年12月 | 第221363号(文部省) |
| 2. 高等学校教諭専修免許状 家庭 | 2000年03月 | 平11高専修第84号(奈良県教育委員会) |
| 3. 中学校教諭専修免許状 家庭 | 2000年03月 | 平11中専修第67号(奈良県教育委員会) |
| 2 特許等 | | |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 4 その他 | | |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|--|---------|------------------|-------------------|---|
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
| 1 著書 | | | | |
| 1. CADパターンメイキング入門 作図から3Dバーチャルフィッティングまで | 共 | 2025年7月1日 第3版発行 | 株式会社 三恵社 | <p>アパレルCADの初心者を対象に、複数のアイテムの作図を通して主要な機能を網羅的に習得できるようにカリキュラムを構成している。さらに、3Dバーチャルフィッティングを取り入れることで、平面上の作図と立体形状との関係を実践的に理解できる内容としている。</p> <p>共著者:末弘由佳理, 池田仁美 (担当部分) ハンガーイラストを除く本文及び構成全般</p> |
| 2. CADパターンメイキング入門 作図から3Dバーチャルフィッティングまで | 共 | 2024年4月11日 第2版発行 | 株式会社 三恵社 | <p>アパレルCADの初心者を対象に、複数のアイテムの作図を通して主要な機能を網羅的に習得できるようにカリキュラムを構成している。さらに、3Dバーチャルフィッティングを取り入れることで、平面上の作図と立体形状との関係を実践的に理解できる内容としている。</p> <p>共著者:末弘由佳理, 池田仁美 (担当部分) ハンガーイラストを除く本文及び構成全般</p> |
| 3. CADパターンメイキング入門 作図から3Dバーチャルフィッティングまで | 共 | 2023年4月1日 初版発行 | 株式会社 三恵社 | <p>アパレルCADの初心者を対象に、複数のアイテムの作図を通して主要な機能を網羅的に習得できるようにカリキュラムを構成している。さらに、3Dバーチャルフィッティングを取り入れることで、平面上の作図と立体形状との関係を実践的に理解できる内容としている。</p> <p>共著者:末弘由佳理, 池田仁美 (担当部分) ハンガーイラストを除く本文及び構成全般</p> |
| 4. 繊維のスマート化技術大系 生活・産業・社会のイノベーションへ向けて | 共 | 2017年12月 | 株式会社 エヌ・ティー・エス | <p>従来の繊維ハンドブックとは異なる視点で、これからの繊維産業を基盤となる技術を中心にまとめている。今後の繊維技術の開発には、機能性、環境、複合化などのキーワードがあげられ、さらに、テクノロジーブッシュ型の開発と共に繊維産業が創り出す未来社会を描き、マーケットプル型の開発が必要であることから、繊維の機能性の再認識、バイオテクノロジーを含めた新たな技術潮流、スマート社会の実現に貢献する繊維の基盤技術、これからの市場ニーズに対応する技術を集約している。</p> <p>共著者:全100名, 鞠谷雄士, 平坂雅男, ~中略~, 末弘由佳理 (担当部分) 「密度が異なる極細繊維のしっとり感」(pp.105-109)</p> |
| 5. 基礎から応用までの作品集 楽しくスクールソーイング | 共 | 2012年03月 | 開隆堂出版株式会社 (全p.87) | <p>中学校・高等学校家庭科の製作実習の授業において、活用できることを目的としている。</p> <p>被服構成学の専門の立場から、応用・発展に結び付く内容をアドバイスやコラムとして紹介している。前半には、制作の基礎知識(体の採寸・型紙・裁断・しるしつけ・布の知識・地直し・布と針と糸の関係)、基礎縫い、縫い代の始末、ミシンの使い方について触</p> |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------|---|--|
| 1 著書 | | | | |
| | | | | れ、続いて、20作品の制作過程を紹介している。また、後半部分には、一部作品の学習指導案を掲載した。 共著者: 布施谷節子, 鳴海多恵子, 川端博子, 磯崎明美, 大久保美雪, 小田巻淑子, 亀井佑子, 千葉桂子, 大村知子, 佐々木貴枝子, 薩本弥生, 佐藤真知子, 柴田優子, 末弘由佳理, 砂長谷由香, 田中百子, 知念葉子, 中村邦子, 若月宣行, 渡部句子 (担当部分) 「針金ハンガーのリメイク 布製ハンガー」(pp. 24-25) |
| 2 学位論文 | | | | |
| 1. 布の風合いにおける「しっとり感」の評価に関する研究 | 単 | 2010年03月 | 京都工芸繊維大学大学院 博士(学術)の学位取得(第564号) | 布の「しっとり」の触知覚を風合い評価のひとつとして提案し、「しっとり」の感覚に関係する物性値の抽出を目指した。また、繊維製品は様々な色彩のものがあることから、人間の五感のひとつである視覚の影響が「しっとり」の触知覚にどのような影響を与えるかについて検討した。更に、将来、繊維製品の表面温度を物理的に変化させた際の感覚評価を明らかにするために、エアゾールスプレー試料を用いて瞬時に皮膚を冷やし、皮膚温を瞬時に変化させた時の「しっとり」の知覚について検討した。 |
| 3 学術論文 | | | | |
| 1. 被服構成学実習の対面授業におけるICT教材の効果 -生活環境学科「アパレル構成学実習Ⅱ」を事例として- (査読付) | 共 | 2025年2月 | 学校教育センター紀要第10号, 武庫川女子大学 学校教育センター pp. 200-213 (2025) | コロナ禍における被服製作実習の遠隔授業の経験から、対面授業においても、オンデマンド教材を中心とした ICT 教材を活用する授業様式を確立した。2024 年度に実施した被服製作実習において、予習のためのオンデマンド教材を計9回配信し、各回の授業においては録画したものを授業後に配信する方法で半期の授業を遂行した結果、予習動画については平均 3.9 回/人の視聴があり、オンデマンド教材が有効であることが示唆された。 末弘由佳理、枝常朋子、坂田彩美 共同研究につき本人担当部分抽出不可 |
| 2. 被服構成学実習におけるICT教材の活用と効果 -アナリティクスからみる教材の利用実態と指導方法の分析- | 単 | 2024年10月 | 日本家政学会誌 Vol. 75 No. 10 pp. 1-8 | 日本家政学会より「研究動向」の執筆依頼を受け、被服構成学におけるICT教材の活用と効果について、自身がこれまでに取り組んだ内容をまとめたものである。 |
| 3. 被服構成学実習の対面授業におけるオンデマンド教材の効果 -短期大学部 生活造形学科「アパレルコンストラクション実習Ⅰ」を事例として- (査読付) | 共 | 2024年3月 | 学校教育センター紀要第9号, 武庫川女子大学 学校教育センター pp. 66-70 (2024) | 衣服の既製化故の被服製作に対する体験不足から、昨今の学生は理解に時間を要する傾向があり、繰り返し説明を聞くことのできるオンデマンド教材は最適であると言える。ワンピース製作において、全工程にオンデマンド教材を作成し、授業を遂行したところ、平均視聴回数が多いもので、2.5 (回/人) 再生していることから、教員による一度の斉説明では理解が困難であることが明らかであり、オンデマンド教材が有効であると判断された。 末弘由佳理、山本泉 共同研究につき本人担当部分抽出不可 |
| 4. ICT教材を活用した「被服構成学実習」における対面授業の試み | 単 | 2023年3月 | 武庫川女子大学情報教育センター紀要・通巻第30号 pp. 19-23 (2023) | COVID-19感染症パンデミックにより、多くの大学において、遠隔授業の実施を余儀なくされ、武庫川女子大学においても同様であった。令和4(2022)年度は、実習授業において、3年ぶりに全回を対面形式で実施することができた。本稿では、武庫川女子大学 生活環境学部 生活環境学科 アパレルコース2年生1)前期開講科目「アパレル構成学実習Ⅱ」の対面授業時に使用したICT教材について、使用実態及び学生からの評価について報告した。 |
| 5. 被服製作に用いる教具に関する検討 -竹尺使用に着目して- (査読付) | 共 | 2023年3月 | 学校教育センター紀要第8号, 武庫川女子大学 学校教育センター pp. 102-109 (2023) | 被服製作において、使い慣れない竹尺ではなく、プラスチック定規を教具として用いることで、学習効果向上を目指すかについて実験的検討を行った。その結果、2種の定規の使いやすさに関する実験では、プラスチック定規の方が短時間にきれいな直線をひくことができ、また、使用者側の実感としても、プラスチック定規が竹尺に比べ、総合的に使いやすいと判断された。 末弘由佳理、吉井美奈子、藤澤泰行 共同研究につき本人担当部分抽出不可 |
| 6. オンデマンド教材を活用した「被服構成 | 共 | 2022年3月 | 武庫川女子大学情報教育センター紀 | COVID-19感染症パンデミックにより、遠隔授業の実施を余儀なくされ、ここではその環境下で実施した「アパレル構成学実習Ⅱ」にお |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------|--|---|
| 3 学術論文 | | | | |
| 学実習」におけるハイブリッド授業の効果（査読付） | | | 要・通巻29号 pp. 1-7（2022） | いて、回毎に対面授業、遠隔（オンデマンド型）授業の方法で実施方法を分けたブレンド型のハイブリッド授業の実践から。その有効性を検証した内容について報告した。 末弘由佳理、中西直美、山川海音 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 7. オンデマンド型遠隔授業と対面授業のハイブリッドによる被服構成学実習の実践報告－短期大学部生活造形学科「アパレルコンストラクション実習Ⅰ」を事例として－（査読付） | 共 | 2022年3月 | 学校教育センター紀要第7号，武庫川女子大学 学校教育センター pp. 83-89（2022） | 「アパレルコンストラクション実習Ⅰ」の科目名で開講している被服構成学実習のオンデマンド形式と対面形式のハイブリッド型による授業の実践をスカート製作に着目して、報告した。 末弘由佳理、山本泉 共同研究につき本人担当部分抽出不可 |
| 8. オンデマンド型遠隔授業によるアパレルCAD教育の実践報告－短期大学部生活造形学科「アパレルCAD実習」を事例として－（査読付） | 共 | 2022年2月 | 学校教育センター紀要第7号，武庫川女子大学 学校教育センター pp. 107-113（2022） | COVID-19感染症拡大の影響により、必要に迫られて実施した「アパレルCAD実習」における遠隔（オンデマンド形式）授業の実践をに報告した。 末弘由佳理、池田仁美 共同研究につき本人担当部分抽出不可 |
| 9. ウエストダーツの縫い開始位置による縫い易さ及び仕上がりの美しさ，指導法に関する検討－教職課程履修者を調査対象として－ | 共 | 2021年12月 | 生活環境学研究 Vol. 9，武庫川女子大学 pp. 38-41（2021） | 洋裁の技法のひとつであるダーツの縫製方法としてダーツ口は返し縫い，，ダーツ先は縫い消して仕上げる方法が広く用いられている。ここでは、対象者を教職課程履修者として、ダーツの縫い開始位置をダーツ口、ダーツ先の二者にした場合において「縫い易さ」「仕上がりの美しさ」「指導法として適する方法」について調査し、ダーツの縫い開始位置に着目してダーツの縫製方法について検討した。 末弘由佳理、白坂文 共同研究につき本人担当部分抽出不可 |
| 10. Web で活用する「基礎縫い」デジタル教材－コロナ禍のオンライン授業時の教材利用を通して－ | 共 | 2021年12月 | 生活環境学研究 Vol. 9，武庫川女子大学 pp. 32-37（2021） | 「基礎縫い」に関するデジタル教材を作成し、2013年度より武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科及び短期大学部生活造形学科の学生を対象として利用を開始した。翌2014年度より学外への公開サイトを併設して、その後の改編を経て現在に至っている。ここでは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるオンライン授業実施期間中の本教材の使用感から得られた意見を基にして、局所の拡大動画を作成するに至った経緯とその結果について報告した。 末弘由佳理、吉井美奈子 共同研究につき本人担当部分抽出不可 |
| 11. オンライン授業実践報告「アパレル構成学実習Ⅱ」 | 単 | 2021年3月 | 日本家政学会被服構成学部会誌 第42号 p. 14 | 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各大学で遠隔授業が実施された。ここでは、ライブ型で実践したアパレル構成学実習Ⅱ（ワンピース製作）の授業実践についての報告を行った。 |
| 12. オンライン授業による被服構成学実習の実践報告－生活環境学科「アパレル構成学実習Ⅱ」を事例として－（査読付） | 共 | 2021年3月 | 学校教育センター紀要第6号，武庫川女子大学 学校教育センター（2021） | 新型コロナウイルス感染症拡大により、緊急事態宣言の発出を受け、武庫川女子では、2020年度前期授業での全オンライン化が実施された。本研究では、武庫川女子生活環境学部生活環境学科アパレルコース2年生前期開講科目「アパレル構成学実習Ⅱ」のオンライン授業の実践を報告した。 末弘由佳理、中西直美、坂田彩美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 13. オンライン授業による被服構成学実習の実践報告－短期大学部生活造形学科「アパレルコンストラクション実習Ⅰ」を事例として－（査読付） | 共 | 2021年3月 | 学校教育センター紀要第6号，武庫川女子大学 学校教育センター（2021） | 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出により、2020年度前期は全授業でのオンライン化が実施された。本研究では、「アパレルコンストラクション実習Ⅰ」（武庫川女子大学短期大学部生活造形学科アパレルコース1年生前期開講）の科目名で開講している被服構成学実習のオンライン授業の実践を報告した。 末弘由佳理、山本泉 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 14. 「基礎縫い」デジタ | 共 | 2020年3月 | 武庫川女子大学情 | 課外の予習・復習にも役立つ「基礎縫い」デジタル教材を作成し、 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|---|---|
| 3 学術論文 | | | | |
| ル教材における左手利き用動画の必要性（査読付） | | | 報教育センター紀要・通巻第27号 pp.6-11 (2019) | 平成25年度から現在に至るまで改良を重ねながら、使用している。本学で作成した（右手利き用の）デジタル教材に関して、左手で作業をする左手利き用教材の必要性を検討した。本研究では、作成した左手利き用「基礎縫い」デジタル教材を中学校で使用した際の教材の利用率や使用感の側面から教材の有効性について検証した。 末弘由佳理、吉井美奈子、藤澤泰行 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 15. 中学校家庭科教材としての縫製手順の検討－ハーフパンツ製作を事例として－（査読付） | 共 | 2020年3月 | 学校教育センター紀要第5号、武庫川女子大学 学校教育センター pp.15-25 (2020) | 中学校家庭科で扱うハーフパンツ製作について、「股下を先に縫う方法」「股上を先に縫う方法」の2つの手順があり、教科書の出版社によって異なるため、これらの2手順を比較させることで、教員を目指す学生自ら考察する力を養うことを目指した。その結果、教員になった際に扱いたい教授法はどちらを検討する中で、簡易であることや仕上がりの美しさの他に生徒の動機づけについても考慮しながら両者について比較していた。 末弘由佳理、白坂文、吉井美奈子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 16. 3Dバーチャルフィッティングソフトがパターンメイキング教育に与える影響 | 共 | 2019年12月 | 生活環境学研究 Vol.7, 武庫川女子大学 pp.40-43 (2019) | 3Dバーチャルフィッティングソフトは、コンピュータの画面上でボディに衣服を着用させる着装シミュレーションソフトで、縫製によるサンプルメイキング以前の段階で着装時のシルエットやディティールを確認することができる。 武庫川女子大学生生活環境学部生活環境学科アパレルコースでは、平成30年度後期からアパレルCADを使用するパターンメイキングの授業で3Dバーチャルフィッティングソフトを使用した教育を開始した。本稿では、3Dバーチャルフィッティングソフトの導入によるアパレルCADの教育効果を検証した結果を報告した。 末弘由佳理、池田仁美、中西直美、坂田彩美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 17. 3Dバーチャルフィッティングソフトを用いたパターンメイキング教育の可能性 | 共 | 2018年11月 | 生活環境学研究 Vol.6, 武庫川女子大学 pp.36-43 (2018) | 3Dバーチャルフィッティングソフトは、コンピュータの画面上でボディに衣服を着用させ、そのシルエットやディティールをシミュレーションし、着用状態をチェックすることのできるアパレルCADソフトである。 本稿では、武庫川女子大学短期大学部生活造形学科アパレルコースで開講している「アパレルCAD実習」において受講生が同一のデザイン画から作図したパターン形状を比較するとともに、パターンからデジタルトワルを作成し、デザイン画のスタイルの再現性を検証した結果を報告した。 末弘由佳理、池田仁美、中西直美、坂田彩美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 18. 「被服構成学実習」授業カリキュラムの構築と実践－基礎縫いを中心に－（査読付） | 共 | 2018年2月 | 学校教育センター年報第3号、武庫川女子大学 学校教育センターpp.165-176 (2018) | 「アパレルコンストラクション実習Ⅰ（被服構成学実習の内容）」の授業カリキュラム及び授業実践、特に基礎縫いを中心に論述している。小中高で習得する知識・技術を文献調査し、入学時の知識についてはアンケート調査を実施することで現状を把握する形をとっている。大学において更に知識・技術を定着させるための課題やレポート、その効果について報告した。 末弘由佳理、山本泉、中尾時枝 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 19. アパレルCAD授業カリキュラムの構築と実践 | 共 | 2017年10月 | 生活環境学研究 Vol.5, 武庫川女子大学 pp.70-77 (2017) | 武庫川女子大学生生活環境学部生活環境学科、同短期大学部生活造形学科アパレルコースで開講しているアパレルCAD関連科目の授業カリキュラムを構築すると共にそこで用いるテキストの作成を行い、平成28年度にアパレルCAD関連の授業で使用して、授業を展開した。本稿では、構築したアパレルCAD関連科目の授業カリキュラム及びテキストの概要、受講学生から得たアンケート調査結果について報告した。 末弘由佳理、池田仁美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 20. 改訂版「基礎縫い」デジタル教材 | 共 | 2017年10月 | 生活環境学研究 Vol.5, 武庫川女子大学 pp.56-59 (2017) | 被服教育のデジタル教材として、学生に分かりやすく予習・復習にも役立つ被服構成学分野における「基礎縫い」に関するデジタル教材を平成24～25年度にかけて作成した。作成した教材に対する中学校「家庭科」教員からの意見を基に、平成27年度に同デジタル教材の改 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------|--|---|
| 3 学術論文 | | | | |
| 21. アパレルCADによる子供原型の半自動作図の提案— 婦人原型から子供原型への展開— (査読付) | 共 | 2016年10月 | 生活環境学研究 Vol.4, 武庫川女子大学 pp.12-21 (2016) | 訂版を作成するに至った。 本稿では、旧「基礎縫い」デジタル教材からの改訂箇所について報告した。 末弘由佳理、本田クミ、大西かおり、中尾時枝 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 身頃原型の作図法は、子供用と婦人用とでは、理論的には同様であるが、バストサイズから各部の寸法を算出する計算式には違いがある。本研究では、アパレルCADシステムに搭載される自動作図の婦人原型から部分的に修正を加えて子供原型に展開する作図法「半自動作図」を考案した。原型を作図したい子供バストサイズから8cmマイナスしたバストサイズで作図した婦人原型からの修正は、変更箇所を最小限に収めることが可能であった。子供原型、婦人原型をそれぞれ作図する上での算出式の差を考慮し、子供原型に展開するための移動量の理論値を導くことができた。 |
| 22. 被服教育における「基礎縫い」デジタル教材の効果 (査読付) | 共 | 2016年7月 | 武庫川女子大学情報教育センター紀要2015 pp.1-7 (2016) | 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 被服構成学実習関連科目を履修する学生の学習環境を整備する目的で、本学の学習支援システムμCamを活用し、平成25年度、そのツールを利用して、課外の予習・復習にも役立つ被服構成学分野における「基礎縫い」デジタル教材を作成した。本稿では、平成25～27年度の3年分の受講後アンケート結果より、デジタル教材は学生の需要が高く、理解度が高かったこと、また、作品の完成度が上がったことから、学生にとって有用な教材であることを明らかにしている。 |
| 23. 布の「しっとり感」に関する研究 | 単 | 2016年3月 | 衣笠繊維研究所報告2015 pp.22-28 (2016) | 末弘由佳理、本田クミ、大西かおり、中尾時枝 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 衣笠繊維研究所より、平成27年度「繊維学術賞」を授与された。これまで継続的に取り組んできた、布のしっとり感に関して研究した内容に対しての表彰であり、これまでの研究成果及び今後の展望を報告の形でまとめたものである。 |
| 24. 2014「げんべい」ビーチサンダルデザインコンテスト in 西宮阪急—武庫川女子大学×げんべい商店 コラボレーション企画— | 共 | 2014年9月 | 生活環境学研究 Vol.2, 武庫川女子大学 pp.42-45 (2014) | 西宮阪急百貨店より依頼を受け、ビーチサンダルデザインコンテストに武庫川女子大学の学生が応募し、その指導を担当した。投票の結果、上位3名の作品が商品化され、2014年3月より、2014年夏物として西宮阪急で販売された。 本稿はこれらの概要を記したものである。 |
| 25. 被服教育における「基礎縫い」デジタル教材の開発 | 共 | 2014年9月 | 生活環境学研究 Vol.2, 武庫川女子大学 pp.38-41 (2014) | 末弘由佳理、池田仁美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 小・中・高等学校の学習要領の変遷や既製服時代を生きる現代の衣服事情等により昨今の大学生は被服製作における体験不足が目立つ。苦手意識の克服等、学生の一助となる教材として、縫製技術の基礎となるテクニック(20種類)についてデジタル教材(動画、音声、説明文、写真およびイラスト含む)を作成し、武庫川女子大学の学習支援システムμCamにアップし、e-Learning教材として活用した。 その内容及びアンケート調査によって明らかになった教材の効果について報告したものである。 |
| 26. 密度が異なる極細繊維インターロックのしっとり感に対する日中比較 (査読付) | 共 | 2014年4月 | Journal of Textile Engineering Vol.60 No.2 pp.35-40 (2014) | 末弘由佳理、本田クミ、大西かおり、中尾時枝 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 布のしっとり感評価に関して、日本人と香港在住の中国人との差の有無を検討することを目的とし、ポリエステルとナイロンの複合繊維からなる極細分割繊維の複合糸、両面編みで密度の異なる編物を試料として検討した。力学量と「しっとり」の関係より、香港在住の中国人学生被験者は、曲げ剛性、曲げヒステリシス、せん断剛性、せん断ヒステリシスの値が小さい布ほど「しっとり」の感覚が強い、すなわち、せん断・曲げやわらかい編布に対して「しっとり」を強く感じている。日本人学生被験者は、平均摩擦係数、曲げ剛性、せん断剛性、せん断ヒステリシス、通気抵抗の値が大きいほど「しっとり」が強い、すなわち、表面に摩擦抵抗があり、せん断・曲げにおいてかたく、通気性の低い編布ほど、強い「しっとり」感をもたらした。 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------|---|--|
| 3 学術論文 | | | | |
| 27. デジタル教材を活用した被服教育 | 単 | 2014年3月 | 大学教育と情報 JUCE Journal 2013年度 No.4 pp.18-20 (2014) | 末弘由佳理、坂本有璃子、鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 武庫川女子大学では、教員の授業と学生の学習活動を活性化させるため、電子教材作成ツールMmoa（モア：Mukogawa Multimedia Original Annotation）および学習支援システムμCam（ミューキャン）を活用し、動画を含む教育用コンテンツのデジタル教材開発に取り組んでいる。 本稿ではMmoaを利用して作成した課外の予習・復習にも役立つ被服構成学分野における製図教材を紹介している。 |
| 28. 被服教育におけるドラフティング電子教材の開発（査読付） | 共 | 2013年11月 | 武庫川女子大学情報教育センター紀要2012 pp.18-23 (2013) | 武庫川女子大学では、教員の授業と学生の学習活動を活性化させるため電子教材作成ツールMmoa（モア）を活用し、動画を含む教育用コンテンツの電子教材開発に取り組んでいる。平成23年度、そのツールを利用して、学生にわかりやすく課外の予習・復習にも役立つ被服構成学分野における製図e-ラーニング教材を作成した。受講後のアンケートから、これまでの一斉指導にのみの学習と比較して、学生の理解度が向上した事実を報告した内容である。 |
| 29. 布の風合い「しっとり」と“Baby’s skin”との類似性（査読付） | 共 | 2013年7月 | Journal of Textile Engineering Vol. 59 No.3 pp.51-57 (2013) | 末弘由佳理、岡田由紀子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 日本語を母国語としない人々に布のしっとり感を理解してもらうためには、「しっとり」という日本語が表す感覚を正確に伝えるための訳語を見出すことが必要である。香港在住の中国人学生を対象として、「しっとり」の説明語に“Baby’s skin”という言葉を用いた。これまで行ってきた布のしっとり感に関する研究を基に、日本の被験者が「しっとり」を感じた布7枚を試料として、正規化順位法により官能評価を行った。その結果、「しっとり」の特徴を示す感性語である「なめらか」、「つるつる」、「冷たい」との間に高い相関があり、また、「しっとり」と“Baby’s skin”の感覚の強い試料同士を比較した結果、有意差は得られなかった。香港在住の中国人学生が評価する布の“Baby’s skin”と日本人学生が評価した布の「しっとり」は、近似した順位となり、類似した感覚をイメージできる可能性がわかった。 |
| 30. 極細分割繊維からなるインターロックのしっとり感に及ぼす編目密度の影響（査読付） | 共 | 2012年9月 | Journal of Textile Engineering Vol. 58 No.4 pp.49-56 (2012) | 末弘由佳理、坂本有璃子、鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 ポリエステルとナイロンの極細分割繊維の糸から作製された両面編で密度の異なる編物を試料として、密度の違いが「しっとり」の感覚に与える影響を検討した。密度が高い編布に対して「しっとり」が強く感じられた。試料間に有意な差が生じた際の密度差は最小で1.49course/cmであった。平均摩擦係数MIU、通気抵抗の値が大きい程「しっとり」が強い、すなわち、表面に摩擦抵抗があり、通気性の低い編布程、強いしっとり感をもたらした。一対比較法による布の触感評価において、「しっとり」をより強く感じる布は、同時に「あたたかい」においても強い感覚が得られ、関係するパラメーターは通気抵抗である。被験者にとって編布のしっとり感は「好き」な触感である。 |
| 31. 学位論文「布の風合いにおける「しっとり感」の評価に関する研究」付：シルエットとの関係の確立『総合的な着心地』の新提案を目指して | 単 | 2012年3月 | 日本家政学会被服構成学部会誌 第33号 pp.20-21 | 末弘由佳理、坂本有璃子、鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 博士学位論文「布の風合いにおける「しっとり感」の評価に関する研究」の内容を研究紹介として書き下し、一部加筆したものである。 |
| 32. 布の風合いにおける「しっとり感」の評価に関する研究（査読付） | 単 | 2011年09月 | 繊維製品消費科学会誌Vol.52 No.9 pp.564-570 (2011) | 博士論文「布の風合いにおける「しっとり感」の評価に関する研究」の内容を研究解説として書き下したものである。 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|--|--|
| 3 学術論文 | | | | |
| 33. Objective evaluation of artificial furs for tactile comfort (査読付) | 共 | 2011年03月 | Textile Research Journal, Vol.81 (4), pp.429-436 (2010) | <p>フェイクファーの表面を指で撫でる際の摩擦抵抗は、触覚の快適さに重要である。表面の毛に対する抵抗を評価するための装置が開発し、KES-SE表面試験機に取り付けて測定することが可能となった。官能評価は、水平方向の抵抗値 (FH) となめらかさ、快適さと「しっとり」との関係を見つけるために実施した。フェイクファーにおける「しっとり感」においては毛の動き易いものがしっとりと感じ、毛の動き易さを裏付ける物性値として、水平方向の抵抗が関係することが明らかになった。水平方向の抵抗値 (FH) はファーの移動に関連があり、ファーの触覚を測定する上で指標の1つにすることができる。</p> <p>田中由佳理, 菅森輝行, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 34. Measurement of Skin touch feel for Fabric “Shittori” based on the thermal transfer | 共 | 2010年11月 | The Textile Institute Centenary Conference Proceedings, pp. 1-12 | <p>日本語の「しっとり」は化粧品を皮膚に塗布した際に一般的に用いられる言葉である。この感覚は消費者にとって快適で好ましいものとして認められており、布における「しっとり」は、滑らかで、あたたかくてやわらかいものであることが分かっている。KES-Fシステムを用いて物性を測定し、更に測色計を用いて色の測定を行った。布の触感評価は色の影響がゼロではないが、触覚によるものが大きいことが分かった。より強い「しっとり」知覚は、最大熱流束 (qmax) の値が小さく接触冷温感があたたかいこと、摩擦係数及び圧縮エネルギーの値が大きいことと相関があった。中でも、「しっとり」にとって最も重要なパラメータは最大熱流束 (qmax) であった。</p> <p>鋤柄佐千子, 田中由佳理, 与倉弘子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 35. カクテルドレス 「aim high」 | 単 | 2010年9月 | (武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科) 学科年次報告2010, p.19 | <p>第78回NDKファッションショーへの出品作品の概要、制作過程をまとめたものである</p> |
| 36. 食育ファッションショー「'09 食博覧会・大阪」 | 共 | 2010年6月 | (武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科) 学科情報誌 2009, p.10 | <p>2009年5月に開催された食の祭典「'09食博覧会・大阪」において、衣生活分野からのアプローチにより食育を学ぶことを目的として、「食育ファッションショー」を試みた。武庫川女子大学生活環境学科の学生が中心となり、企画、デザイン・制作を行い、モデルやアナウンスも全て学生 (総勢47名) が担当した。3回公演は全て満席となり、児童・生徒に食とは異なる分野からの食育がアピールできた。又、取り組んだ本学の学生にとって、企画を一から担うことは有意義な経験になったと確信する。</p> <p>本田クミ, 寺嶋愛, 末弘由佳理, 中尾時枝 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 37. スプレーによる噴霧が人の感覚や布の熱伝達機構に及ぼす影響 (査読付) | 共 | 2010年06月 | デサントスポーツ科学, Vol.31, pp.12-21 (2010) | <p>スプレー (ジメチルエーテル (DME), 水, エタノールの配合量を変えた数種) を布にかけた時の冷却効果について蒸発潜熱と衝突噴流による冷却の要因を明確にし、衣服内の温度制御に用いる可能性をみつける目的で実験を行った。</p> <p>噴霧直後の急激な温度低下において、初期低下には、DMEの有無が大きく影響した。噴霧後40~80秒経た気流が定常状態に近くなった状態で、エタノールと水の配合率と布からの平均蒸発速度 (W) の関係をニュートンのクーリングの法則より推定した結果、綿試料ではエタノールの配合率が高くなるほどWは大きくなり、ポリエステル試料では逆の傾向が得られた。すなわち、この熱移動は、布の水分量の影響が大きく、また皮膚にスプレーした1分後の溶剤の蒸発と関係が深いこともわかった。</p> <p>鋤柄佐千子, 田中由佳理 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 38. 布のしっとり感評価に及ぼす視覚と触覚の影響 (査読付) | 共 | 2010年01月 | Sen'i Gakkaishi, Vol.66, No.1, pp.7-14 (2010) | <p>布の「しっとり感」を判断する際に、視覚情報から入る色の影響がどのように影響するかを検討することを目的とした。同組成で色違いの試料を用い、官能評価を行った結果、同組成にも関わらず試料間の「しっとり感」に有意差が見られた。色がしっとりの感知に影響すると思われるが、布表面の毛羽の方向が変化しやすい布において、試料間の差が大きいことから色のみではなく毛の方向性が触診</p> |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------|---|---|
| 3 学術論文 | | | | |
| 39. Coolness and sensation of comfort produced using aerosol spray (査読付) | 共 | 2009年12月 | Journal of Textile Engineering Vol. 55 No.6 pp.163-169 (2009) | <p>の際に影響を与えるのではないかと考察する。 <u>田中由佳理</u>, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 エアゾールスプレー(配合物:水・エタノール)を肌に噴霧した時、冷たさを覚えるが、ここではその感覚における「心地よい冷たさ」と「しっとり感」について検討を行った。物性値として、熱板にスプレーを噴霧した際のヒートロス及び表面温度を測定した。また官能検査においては、スプレー直後と1分後の「冷たさ」「心地よさ」、1分後の「しっとり感」を質問し、同時にサーモグラフィを用いて皮膚表面の温度を測定した。瞬時の冷たさ及び1分後の冷たさにおいて感覚が強い試料は水を多く含むものであったが、「心地よさ」の感覚は低かった。しっとり感においては季節により結果が異なり、夏よりも春の方が水分の多い試料において「しっとり」が強く感じられた。</p> |
| 40. ウェディングドレス「Forever and Ever」 | 単 | 2009年9月 | (武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科) 学科情報誌2009, p.11 | <p><u>田中由佳理</u>, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 第77回NDKファッションショーへの出品作品の概要、制作過程をまとめたものである。</p> |
| 41. The relations of vision and tactile sensation for “shittori” characteristic of fabrics. | 共 | 2009年09月 | Proceedings of the 38th Textile Research Symposium at Mt. Fuji(2009), pp. 195-197 | <p>布の「しっとり感」における視覚と触覚の影響を明らかにすることを目的とした。「しっとり感」を触診により判断する際、視覚よりも触覚によるものが大きいことが分かった。また、布表面に毛羽を有する布は「しっとり感」が強いと先行研究で分かっているが、フェイクファーにおける「しっとり感」においては毛の動き易いものがしっとりと感じ、毛の動き易さを裏付ける物性値として、水平方向の抵抗が関係することが明らかになった。</p> |
| 42. Cool feeling produced by aerosol spray and its application to fabrics | 共 | 2008年08月 | Proceedings of the 37th Textile Research Symposium in Daegu(2008), Textile Machinery Society of Japan, pp149-153 | <p><u>田中由佳理</u>, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 エアゾールスプレーを肌に噴霧した時、冷たさを覚えるが、ここではその感覚における「心地よい冷たさ」と「しっとり感」について検討を行った。物性値として、熱板にスプレーを噴霧した際のヒートロス、及び、表面温度を測定した。また官能検査においては、スプレー直後と1分後の「冷たさ」「心地よさ」、1分後の「しっとり感」を質問し、同時にサーモグラフィを用いて皮膚表面の温度を測定した。又、パンティーストッキングの上からスプレーを噴霧した際の官能検査も実施した。</p> |
| 43. Evaluation of “Shittori” Characteristic for Fabrics (査読付) | 共 | 2008年06月 | Journal of Textile Engineering Vol. 54 No.3 pp.75-81 (2008) | <p><u>田中由佳理</u>, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 しっとり感をより強く感じる布は、摩擦係数が小さく滑らかな表面を持つ布であり、糸が細く、織密度が高いもの、最大熱流量q_{max}の値が小さいもの、圧縮仕事量、曲げヒステリシス、厚さの値が大きいものであることが分かった。また、美容用品のように水分率が高いものにおいてしっとり感が高いという結果は得られず、美容用品と布との「しっとり」のは中身は異なることが分かった。</p> |
| 44. ウェディングドレス「A Happy Twinkle」 | 単 | 2008年03月 | 夙川学院短期大学研究紀要第37号 pp.49-51 | <p><u>田中由佳理</u>, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 第75回NDKファッションショーへの出品作品の概要、制作過程をまとめたものである。</p> |
| 45. Hand Evaluation for “Shittori” Characteristic of Fabrics | 共 | 2007年8月 | Proceedings of the 4th International Symposium for Material & Kansei in Textiles - Fashion, Y.K.D Joint Symposium | <p>触覚の一つに「しっとり」という感覚がある。布の風合いにおけるしっとり感において、主観・客観的評価から、特性値化するための指針を明確化することを目的とした。しっとり感をより強く感じる布は、摩擦係数が小さく滑らかな表面を持つ布であり、糸が細く、織密度が高いもの、最大熱流量q_{max}の値が小さいもの、圧縮仕事量、曲げヒステリシス、厚さの値が大きいものであることが分かった。また、布表面に細い毛羽のある布において、しっとり感が強く感じられた。</p> |
| | | | | <u>田中由佳理</u> , 鋤柄佐千子 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|------------|---|---|
| 3 学術論文 | | | | |
| 46. Hand Evaluation for "Shittori" Characteristic of Fabrics | 共 | 2007年8月 | 2007 Committees, pp.82-87 Proceedings of the 4th International Symposium for Material & Kansei in Textiles - Fashion, Y.K.D Joint Symposium 2007 Committees, pp.82-87 | 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 触覚の一つに「しっとり」という感覚がある。布の風合いにおけるしっとり感において、主観・客観的評価から、特性値化するための指針を明確化することを目的とした。しっとり感をより強く感じる布は、摩擦係数が小さく滑らかな表面を持つ布であり、糸が細く、織密度が高いもの、最大熱流量 q_{max} の値が小さいもの、圧縮仕事量、曲げヒステリシス、厚さの値が大きいものであることが分かった。また、布表面に細い毛羽のある布において、しっとり感が強く感じられた。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 47. Hand Evaluation for "Shittori" Characteristic of Fabrics | 共 | 2007年08月 | Proceedings of the 36th Textile Research Symposium at Mt. Fuji(2007) p. 191-194 | 布の「しっとり感」は布のやわらかさやあたたかさそれぞれの感覚が強いものにおいて強い感覚を抱き、これらの感覚との関係が深いことが官能検査の結果から分かった。化粧品における「しっとり感」は保湿と密接な関係があるが、布においては保湿とは関係がないことが水分率の測定から明らかになり、繊維の細さだけではなく糸の細いもの、更には繊維表面に毛羽を有する布が「しっとり」をより強く感じる事が明らかになった。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 48. ウェディングドレス「Coming Up Roses!」 | 単 | 2007年03月 | 夙川学院短期大学研究紀要第36号(芸術・デザイン編) pp.1-3 | 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 第74回N D Kファッションショーへの出品作品の概要、制作過程をまとめたものである。 |
| 49. 被服構成学における Personal Computer 活用 の研究 (第7報) - オーバー・ブラウス - オーバー・ブラウス中心に - | 共 | 2007年03月 | 大阪樟蔭女子大学(学芸学部)論集第44号 pp.109-120 | 被服構成学教育において、教育界、アパレル産業界などに卒業生を送り込むためには、コンピュータとのかかわりは不可欠なものとなっている。特に衣服設計の面では図形処理の基本的な知識は勿論のこと、アパレル工学の学習も要求される時代となっている。さらに近年はファッション界における多様化、個性化、高級化などに対する対応、消費者ニーズへの対応による価値観の変化により、アパレルCADの活用はさらに重要となっている。今回はすでに発表した胴部原型、袖部原型及び基本型ブラウスに基き、体型の欠点をカバーし、補正が少なく、多くの人に適合し、美しく着やすい服という諸点を前提として、短時間で作図できるオーバー・ブラウスの自動作図プログラムに関する内容である。 小田明美, 定延久美子, 田中由佳理, 日下英子, 杉本樹里 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 50. 高等学校家庭科における生徒の個性を生かす被服製作教材の開発 (査読付) | 単 | 2007年03月 | 奈良女子大学家政学会家政学研究 Vol.53 No.2 pp.63-70 | いわゆる学習困難校と言われる高等学校において、その生徒の個性を生かし、又、生徒の実態に即した内容の必要性から、「家庭一般・被服製作実習」における教材開発を試みたことに関する論文である。被服製作実習の目的を、ミシン操作を習得すること、物の起源や成り立ちを知ること、学習の喜びを味わうこと、これら3つとした。4年間にわたる研究の中で、改良を加え、実際に指導を行い、作り上げた教材である。実技試験の結果や生徒の反応等から、上記3つの目的を果たす題材として有効であることが確認できた。 |
| 51. 縫目強さに及ぼす縫目形状と縫目間隔の影響 (査読付) | 単 | 2006年03月 | 夙川学院短期大学研究紀要第33号(科学・技術編) pp.13-36 | 縫目強度に関する研究の多くは、縫目の方向を布のたて又はよこと一致させ、荷重をかけた場合のものが大部分である。実際の衣服の縫製においては、立体を形成する上で、縫目線は曲線であるものが多く、ある角度をもって折れ曲がっている場合もある。ここでは種々の縫目形状における引張り破壊強度を測定し、破壊挙動において縫目線が曲がっている場合と折れ曲がっている場合について実験的に検討した。 |
| その他 | | | | |
| 1. 学会ゲストスピーカー | | | | |
| 1. デジタル教材作成に用いる便利なアイテム | 単 | 2021年8月27日 | 日本家政学会 被服構成学部会 公開夏期セミナー「衣生 | 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各大学で遠隔授業が実施されているが、被服構成学実習の内容を遠隔授業で実施する上での布や糸の選定の方法及び道具類について、また、Googleドライブ |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|------------|--|--|
| 1. 学会ゲストスピーカー | | | | |
| 2. オンライン形式による「被服構成学分野」の授業実践 | 共 | 2020年9月19日 | 活教育に活かすビデオコンテンツ」(オンライン開催) 日本家政学会被服構成学分会「オンラインでの実習授業の取り組みに関する情報交換会」(オンライン開催) | のショートカット作成による利便性について紹介した。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各大学で遠隔授業が実施された。ここでは、ライブ型で実践した被服構成学実習及び、オンデマンド型で実施したアパレルCAD実習の授業実践についての報告を行った。 |
| 3. 布の風合い'しっとり感'に関する研究 | 単 | 2017年5月27日 | 公益財団法人 衣笠繊維研究所 平成29年度学術講演会 | 衣笠繊維研究所より、平成27年度「繊維学術賞」を授与された。記念講演として、受賞研究の内容で講演を行った。内容は、これまで継続的に取り組んできた、布のしっとり感に関して研究した内容に対する表彰であり、これまでの研究成果及び今後の展望を報告の形でまとめたものである。 |
| 2. 学会発表 | | | | |
| 1. ICT教材「基礎縫い」の利用実態からみる「基礎縫い」指導上のポイント | 共 | 2025年7月 | 日本家庭科教育学会第68回大会 日本家庭科教育学会第68回大会 研究発表要旨集p.30 | 本研究は、武庫川女子大学が作成したICT教材「基礎縫い」のYouTubeアナリティクスを用いて視聴実態を分析し、効果的な指導方法を検討したものである。視聴が集中する場面や利き手別の視聴傾向から、初心者や低年齢層には利き手に応じた教材が有効であることが示唆された。ICT教材は視覚的理解に優れる一方、実技指導との併用が重要である。既存教材の活用方法を学ぶためのWebサイトも作成し、今後の教育現場での活用を提案した。 末弘由佳理、吉井美奈子、藤澤泰行 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 2. オンデマンド教材を用いた対面授業による3Dバーチャルフィッティングの教育効果 | 共 | 2025年5月 | 日本家政学会第77回大会 日本家政学会第77回大会研究発表要旨集p.95 | アパレルCAD関連科目においてオンデマンド教材を用いた対面授業の受講生の自己評価を用いて、3D力及びパターンメイキング力向上の分析を目的とした。パターンメイキング、3Dのオンデマンド教材を事前配信し、対面授業を実施した。半期間に、14アイテムについてCADによりパターンメイキング及び3D着装を行い、学期末にアンケート調査を行い、パターン力、CADによるパターン力、3Dについて10件法(3Dは11件)で自己評価を実施した結果、パターンメイキング・アパレルCAD関連科目の一年間の学びを経て、パターン力は平均値として2.1から7.1に、CADによるパターン力は2.0から7.3に、3D力は1.0から6.9に上昇した。3Dにおいては、1.0であったものが、学期末には6.9に到達したことから、パターン力やCADによるパターン力に並ぶ技術が身についたことが示唆された。 末弘由佳理、中西直美、坂田彩美、池田仁美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 3. パターンメイキング教育におけるオンデマンド教材の学習効果ーアパレルCADを用いたパターンメイキング及び3Dバーチャルフィッティングを中心にー | 共 | 2024年5月 | 日本家政学会第76回大会 日本家政学会第76回大会研究発表要旨集p.86 | アパレルCAD関連科目においてオンデマンド教材を用いて実施した対面授業を受講した学生たちの提出物及び自己評価を用いてパターンメイキング力の向上について分析することを目的とし、パターンメイキング及び3Dバーチャルフィッティングの習得とオンデマンド教材の分かり易さについて5件法で設問をした。また、自身のパターンメイキング力及びCADによるパターンメイキング力について、10件法で自己評価を実施した。オンデマンド教材の分かり易さについては、平均値が4.5であり、概ね高評価であった。また、自己評価においては、前期・後期に開講のパターンメイキング・アパレルCAD関連科目の学びを経て、パターンメイキング力において5.6ポイント、CADによるパターンメイキング力においては5.9ポイント上昇した。 末弘由佳理、坂田彩美、池田仁美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 4. 被服実習における作業解説動画を活用した反転授業の導入ー1人1台端末を活用した中学校 技術・家庭 | 共 | 2023年10月 | 第49回全日本教育工学 青森大会 研究協議会全国大会 論文集pp.240-243 | 近年中学校の技術・家庭科では、経験年数の浅い教員や、技術・家庭科の免許を持たず、免許外で授業を担当する教員も多くおり、被服実習における縫い方などの指導への不安を感じる者も多い。その中でも特に、自分の利き手と異なる作業の説明は困難度が高い。そこで、被服実習における左利き者への作業動画の作製を行った。併せて、課 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------|---|---|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 科の授業－ | | | | <p>題の完成に至るすべての作業工程を解説する動画を作製し、授業前に各家庭でこの動画を視聴し、授業に参加することにより、各授業での作業工程の解説の時間を短縮し、作業時間を増やすことが可能となり、設定した完成までの授業数の中での完成率を向上させることができた。</p> <p>藤澤泰行、末弘由佳理、吉井美奈子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 5. 被服構成学実習におけるICT教材－オンデマンド教材の事前配信による予習の効果－ | 共 | 2023年9月 | <p>公益社団法人私立大学情報教育協会</p> <p>2023年度 私情協教育イノベーション大会資料p.208 (オンライン開催)</p> | <p>COVID-19感染症拡大の影響による遠隔授業を経て、2022年度は対面授業において、ICT教材を使用して授業を遂行した。2023年度においてはICT教材を予習ツールとして用いる方法で反転授業を実践した。本研究では、反転授業の実践及びICT教材の活用実態、受講学生からのICT教材への評価について報告する。ICT教材の必要性を調査する目的で、授業終了後にアンケート調査を実施した。事前配信動画の有益性(5件法、「5」が最も必要であることを示す)を設問した結果、予習のために事前に配信した動画の有益性においては、平均値が4.8(標準偏差:0.625)であり、有効性が高いことが確認できた。</p> <p>末弘由佳理、坂田彩美、影山彩希 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 6. 中学生を対象とした定規の使いやすさに関する検討－線を引くための道具として－ | 共 | 2023年7月 | <p>日本家庭科教育学会第66回大会 日本家庭科教育学会第66回大会 研究発表要旨集p.59 (オンライン開催)</p> | <p>被服製作実習においても、現在使用されている竹尺とプラスチック製の定規(以下、方眼定規とする)の使用しやすさを比較検証するため実態を調査することが本研究の目的で、両者を使用して平行線を書いた際にそれぞれの定規の使いやすさ11項目について調査を行った。全11項目において方眼定規の方が高評価であり、主観評価において、道具の違いによる差が生じ、同じ作業をする上で道具の選定の重要性を提唱できることができた結果である。中でも、「平面的なものの計測に用いたい」では、11項目の中で両者の平均値の差が最大(2.18)であり、中学生が平面的な対象物を計測する際には、竹尺ではなく、方眼定規を用いたいと考えていることが示唆された。</p> <p>末弘由佳理、吉井美奈子、藤澤泰行 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 7. ICT教材を利用した対面授業によるアパレルCAD教育 | 共 | 2023年6月 | <p>繊維製品消費科学学会</p> <p>2023年年次大会・研究発表要旨p.61 (オンライン開催)</p> | <p>アパレルCAD関連科目において、2021年度は非対面によるオンデマンド形式で実施し、2022年度においては、対面によるオンデマンド形式で授業を実施した。本研究では、オンデマンド教材を用いた際の授業方法の違い(非対面、対面)による受講学生からの評価及び教育効果について調査することを目的とする。オンデマンド教材の分かりやすさについて5件法で設問をしたところ、平均値は4.3(2021年度、3.9)であり、質問のしやすさは、4.0(2021年度、3.1)であった。教材の分かりやすさは、非対面、対面に関わらず、分かり易い教材であると判断できるが、質問のしやすさについては、対面の方が優位であることが示唆された。このことは自由記述からも判断することができ、2021年度の非対面時のデメリットとして、「質問しにくい」とのコメントが回答者の100%であったが、2022年度は、全体の4.3%であり、「(デメリットは)特になし」との回答が全体の47.9%であった。</p> <p>末弘由佳理、池田仁美、坂田彩美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 8. 被服分野の対面授業におけるオンデマンド教材－アナリティクスにみる教材の利用実態－ | 共 | 2022年9月 | <p>公益社団法人私立大学情報教育協会</p> <p>2022年度 私情協教育イノベーション大会資料p.235 (オンライン開催)</p> | <p>2022年度に、3年ぶりに全回対面授業で実施した「アパレル構成学実習Ⅱ」の授業実践及びICT教材の活用実態、学生からのICT教材への評価について報告である。動画の必要性(5件法)及び視聴の有無(4件法、「視聴の必要なし」「一通り、視聴」「ピンポイントで1回視聴」「ピンポイントで複数回視聴」)を設問した。一斉説明動画は視聴回数の少ない動画もあり、必要性は低く、欠席者のためのものとなっている可能性を考察していたが、学生に対して必要性を問うたところ、平均値は4.9(標準偏差:0.305)と高値と言える結果であり、理由として「復習に役立つ」が大半を占めた。事前作成動画の必要性は、4.8(標準偏差:0.379)であり、一斉説明動画と同様に必要度が高い。事前作成動画3本の視聴状況は、「一通り、視聴」が最も多く、いずれも40%以上であった。</p> |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------|---|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 9. Web「基礎縫い」教材の利用に関する調査－アナリティクスからみる教材の利用実態－ | 共 | 2022年7月 | 日本家庭科教育学会第65回大会 日本家庭科教育学会第65回大会 研究発表要旨集p.60 (オンライン開催) | 末弘由佳理, 坂田彩美, 枝常朋子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 本研究で用いる「基礎縫い」デジタル教材は、コロナ禍前の2013年度から利用をしているものであり、縫製技術の基礎となる27種類について動画を中心として作成した教材である。YouTubeアナリティクスから抽出した視聴回数を指標として、上位の動画は、「バイアステープによる始末(落としミシン)」「糸ループ」「ホックのつけ方」「スナップのつけ方」「まつり縫い」であり、いずれも右手による作業の動画(以下、「右手動画」)であった。これら5種の縫い方において、左手で作業した動画(以下、「左手動画」)の視聴回数と比較すると、「バイアステープによる始末(落としミシン)」「糸ループ」「ホックのつけ方」においては、右手動画の5%未満の利用数であったが、「スナップのつけ方」は約8%、さらに「まつり縫い」は約53%であり、また、上記に含まれていない「プランケットステッチ」は、右手動画の約77%の利用数であった。糸を左から右、或いは右から左に「かける」動作の必要な縫い方においては、かける動作が左右反転となり、そのことが左手動画の利用数と関係していることが示唆された。 |
| 10. オンデマンド型遠隔授業と対面授業のハイブリッドによるパターンメイキング教育 | 共 | 2022年6月 | 繊維製品消費科学会 2022年年次大会・研究発表要旨p.31 (オンライン開催) | 末弘由佳理, 吉井美奈子, 藤澤泰行 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 アパレルCAD関連科目における非対面式によるオンデマンド型遠隔授業と対面授業のハイブリッド形式で2021年度に実施した上記科目の受講学生からの評価からみる教育効果について調査することを目的とする。オンデマンド教材の分かり易さについて5件法で設問をしたところ、回答者24名の平均値は3.9であり、分かり易い教材であることが示唆された。また、記述式で回答を得たオンデマンド型遠隔授業のメリット及びデメリットにおいては、メリットとして、「繰り返し視聴可」54.2%、「自分のペースでできる」75.0%であった。また、デメリットにおいては、100%が質問しにくいと回答しており、以上の結果から、対面授業でオンデマンド教材を使用する方法が本科目の内容には適していると考えることができた。 |
| 11. ギャザースカートの視覚における「しっとり」感 | 共 | 2022年5月 | 日本家政学会第74回大会 日本家政学会第74回大会研究発表要旨集p.68 (オンライン開催) | 末弘由佳理, 池田仁美, 坂田彩美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 本研究では、視覚的な「しっとり」を判断する際に、衣服のどの部分を捉えて評価するのかを明らかにすることを目的とする。衣服のフォルムとの視覚的な「しっとり」の関係をみるため、テクノア社製のi-Designerを用いて、パーチャル布及びギャザースカート3D画像を作製し、前面の面積、高さ(丈)、幅、脇線のウエストから裾にかけての広がり(角度)を計測した。試料とするパーチャル布は、触感「しっとり」の異なる6種において、KESによる物性値を用いて作製した。ギャザースカートの3Dパーチャル画像(前面)の計測値においては、視覚的な「しっとり」と面積及び脇線角度の間に負の高い相関関係がみられ、評価者はギャザースカートのウエストライン付近の脇線の膨らみを見て、判断していることが示唆された。 |
| 12. オンデマンド型遠隔授業と対面授業のブレンド型ハイブリッド授業による被服構成学実習の授業実践 | 共 | 2021年11月 | 日本家政学会関西支部第43回研究発表会 研究発表要旨集 2021年度p.8 | 末弘由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 COVID-19 感染症緊急事態宣言発令を受け、学期途中に対面授業から遠隔授業へと移行した。学期開始時点からの遠隔授業であった一昨年と異なり、今年度は既に対面において授業がスタートし、シラバス通りにスカートの製作段階であった。遠隔授業の形態は、教材動画を配信するオンデマンド型を主として、授業時には Google Meet を用いた質問時間を設けた。YouTube アナリティクスにより解析した結果、教材動画の繰り返し視聴がみられ、理解するに至るまでに複数回視聴していることがうかがえ、オンデマンド教材の一定の有効性が示唆された。 |
| 13. アパレルCAD教育にお | 共 | 2021年9月 | 2021年度 私情協 | 末弘由佳理, 山本泉 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 被服構成学実習は対面形式での授業が当然であった中、COVID-19感 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|------------|---|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| けるオンデマンド型遠隔授業の実践とその効果 | | | 教育イノベーション大会資料p.186 (オンライン開催) | 染症拡大の影響下において遠隔での実施が迫られた。それらの実践において特にオンデマンド型での実施は、繰り返しの視聴ができることによる理解度向上が顕著であることが分かり、対面授業時において説明をした内容においても該当の教材動画は繰り返しの視聴がなされていることから、教材動画は遠隔の際にのみ必要ということではなく、難易度の高い工程においては、対面・遠隔形式の区別なく必要であることが示唆された。 池田仁美, 末弘由佳理 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 14. 遠隔授業による被服構成学実習の実践報告 -オンデマンド形式を中心として- | 共 | 2021年9月 | 2021年度 私情協教育イノベーション大会資料p.167 (オンライン開催) | オンデマンド型による遠隔実施におけるアパレルCAD教育の効果について、従来の対面授業と比較し、検証をおこなった。授業の実践の結果、アパレルCAD教育におけるオンデマンド教材は受講学生の個々の理解力や習熟進度に柔軟に対応できる可能性があることが示唆された。 末弘由佳理、中西直美、山川海音 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 15. 「家庭科」被服製作において使用する定規に関する実態調査 | 共 | 2021年7月 | 日本家庭科教育学会第64回大会 研究発表要旨集p.56 (オンライン開催) | 学校教育現場における被服製作実習の中で出来上がり線や裁断線を布にしるす教具として竹尺に着目し、児童・生徒にとってより合理的かつ活用しやすい教具を再考し、苦手意識をつくらぬ教具について検討することを目的として、中学校教員、教科書会社、教材販売会社への調査結果を報告した。 末弘由佳理、吉井美奈子、藤澤泰行 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 16. オンデマンド形式によるアパレルCAD教育の授業実践 | 共 | 2021年6月 | 繊維製品消費科学会 2021年年次大会・研究発表要旨 p.40 (オンライン開催) | 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、遠隔授業の必要性が生じ、その中で実施した「アパレルCAD実習」における非対面形式に対応したオンライン教材の作成、受講学生の理解度及び満足度について調査した結果を報告した。 末弘由佳理、池田仁美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 17. Webで活用する「基礎縫い」デジタル教材の動画に関する検討 -一人一台端末環境に向けて- | 共 | 2021年5月30日 | 日本家政学会第73回大会研究発表要旨集p.106 (オンライン開催) | 既存(武庫川女子大学作製)の「基礎縫い」動画を用いて、指などの動作部分を中心にトリミングを行い、部分拡大動画を作製し、6種の表示画面(全体表示のみ、(拡大表示のみ、画面埋め込み(全体表示メイン、拡大サイズ埋め込み)、画面埋め込み(拡大表示メイン、全体サイズ埋め込み)、2画面(全体・拡大サイズ均等)、2画面(拡大表示メイン))をビデオ編集ソフトを用いて編集した。教員を対象として、「まつり縫い」「千鳥掛け」において、それぞれ6種の動画を閲覧し、分かりやすさについての順位を回答する形式でアンケート調査を実施した。得られた順位は「まつり縫い」「千鳥掛け」共に同順位であり、共に分かりやすさの最高位は拡大表示のみの動画であった。 吉井美奈子, 末弘由佳理 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 18. ギャザースカートの視覚における「しっとり」と触覚における「しっとり」との関係 | 共 | 2021年5月29日 | 日本家政学会第73回大会研究発表要旨集p.90 (オンライン開催) | 着状態の衣服から得られる視覚的な「しっとり」の印象と触覚における「しっとり」の関係を調べ、画像上に表現されたフォルムから得る印象に、布の風合い「しっとり」がどのように評価されるかについて明らかにすることを目的とした。45種の布を触覚評価した検査結果に基づき「しっとり」の差が明確な6種を選定し、アパレルCAD上でバーチャル布及びギャザースカートのパターンを作製し、3Dによる着状態の画像6種を提示し、しっとり、やわらかい、重い、美しい、かわいい、ドレッシー、好みについてSD法(7段階)で評価値を得た。せん断・曲げ共に剛い編布は、視・触覚ともに「しっとり」の評価が高く、布の風合いがバーチャル画像からも同様の印象をうける可能性がわかった。 末弘由佳理、鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 19. 家庭科教育におけるデジタル教材-Webで活用する「基礎縫 | 共 | 2020年12月 | 日本家庭科教育学会 2020年度大会 (オンライン開 | コロナ禍以前から、ホームページ上に被服教材を載せていたが、学生へのアンケート調査を実施し、教材としての効果を検証したものである。動画については再編集を行い、読みやすいテロップを付け |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------|--|---|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 20. 被服教育におけるデジタル教材-新型コロナウイルスに伴うオンライン授業時の教材利用- | 共 | 2020年12月 | 日本家庭科教育学会 2020年度大会 (オンライン開催) 研究発表要旨集 (頁Noなし) | <p>るなどの良化を行っている。また、左手利きの児童生徒が増えてきている現状から、左手利き用のページも用意した。完成したデジタル教材をWeb上で公開し、在学生や卒業生に評価してもらったところ、「この教材を裁縫時に使ってみたいか」と尋ねた質問には、87.5%が使ってみたいと答えていた。その理由は「分かりやすい」というものが多く、動画があることで理解できていない部分を確認できるからという理由がみられた。</p> <p>吉井美奈子, 末弘由佳理 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> <p>新型コロナウイルス流行に伴う学校休校で、家庭科の被服教育で利用できるデジタル教材の活用について、現場教員からの聞き取り等によって、その効果を検証したものである。スマートフォンでの閲覧者が大半であり、細部が見えないとの意見が出され、動画のサイズにおいては、パソコンで見ることを基本として作成していた感があり、スマートフォンでの閲覧者が多い現状に合わせて、拡大した動画の作成を行い、改編につなげることとした。</p> <p>末弘由佳理, 吉井美奈子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 21. 「家庭科」被服製作で用いる定規に関する検討 | 共 | 2020年12月 | 日本家庭科教育学会 2020年度大会 (オンライン開催) 研究発表要旨集 (頁Noなし) | <p>被服製作で一般的に用いられる教具 (定規) についての検討である。小中高等学校では、和裁、洋裁に関わらず、竹定規が用いられることが多いが、そのものに対する教育的効果等の扱いについて検討がなされておらず、本研究は児童・生徒たちが使用する際の使いやすさに着目し、直線の歪みなどを測定して検証した。</p> <p>末弘由佳理, 吉井美奈子, 藤澤泰行 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 22. オンライン形式による被服構成学実習の授業実践 | 共 | 2020年11月 | 日本家政学会関西支部第42回研究発表会 研究発表要旨集2020年度p. 5 | <p>新型コロナウイルス感染症緊急時代宣言を受け、2020年度前期全ての授業でのオンライン化が決定し、その中で実施した被服構成学実習のオンライン授業の実践について報告である。アイテムにおいては道具等の物理的側面を鑑み、スカートとワンピースからマスクとショートパンツに変更した。授業形態は、Google Meetを用いたライブ配信型を主として、説明のための動画、静止画、スライドを事前に作成し、作図においては書画カメラを用いてライブで実演を行った。全履修者が履修放棄することなく、授業に参加し、課題を提出することができた。</p> <p>末弘由佳理, 山本泉 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 23. アパレル CAD 教育の変遷-武庫川女子大学生生活環境学科を一例として- | 共 | 2020年6月 | 繊維製品消費科学会2020年年次大会 2020年年次大会・研究発表要旨p. 26 | <p>本学生生活環境学科におけるアパレルCAD教育の変遷について調査し、授業カリキュラムにおけるCADの重要性や機器の更新に伴って実践的な教育内容に移行してきた過程を明らかにした。</p> <p>池田仁美, 末弘由佳理 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 24. アパレルCAD教育の変遷-武庫川女子大学短期大学部生活造形学科アパレルコースを一例として- | 共 | 2020年6月 | 繊維製品消費科学会2020年年次大会 2020年年次大会・研究発表要旨p. 25 | <p>本学短大生活造形学科におけるアパレルCAD教育の変遷について調査し、授業カリキュラムにおけるCADの重要性や機器の更新に伴って実践的な教育内容に移行してきた過程を明らかにした。</p> <p>末弘由佳理, 池田仁美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 25. スカート形状の「しっとり」と触感における「しっとり」との関係 | 共 | 2020年5月 | 日本家政学会第72回大会研究発表要旨集p. 117 (新型コロナウイルス感染拡大防止) | <p>本研究ではアパレルCADにより作製したスカート画像から受ける「しっとり」の印象と手で触って感じる「しっとり」の関係を調べ、将来触感情報を画像に表現する上で考慮すべき点を明らかにする。先行研究により「しっとり」の差が明確な6種の布を選定し、テクノア社製のi-Designer上でバーチャル布を6種作製した。ギャ</p> |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|------------|--|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 26. 中学校家庭科で扱うショートパンツ作品の完成度と縫製手順の関係 | 共 | 2019年10月 | 日本家政学会関西支部第41回研究発表会 研究発表要旨集2019年度p. 46 | <p>のため、誌上にて実施)</p> <p>ザースカートを作図し、3Dバーチャルフィッティングソフト上で着装を行い、画像を被検者に提示し「しっとり」「やわらかい」「重い」「美しい」「かわいい」「ドレッシー」「好み」についてSD法で値を得た。「しっとり」は「重い」を除く5項目と正の相関がみられた。触感評価の「しっとり」が低い布の物性値を基にした画像が「しっとり」が高くなる場合がみられた。</p> <p>末弘由佳理、鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> <p>中学校家庭科で扱うハーフパンツ製作について、「股下を先に縫う方法」「股上を先に縫う方法」の2つの手順があり、教科書の出版社によって異なるため、パンツの構成・構造の理解のみならず、それぞれのメリット・デメリットを考察し、これらの2手順を比較させることで、教員を目指す学生自ら考察する力を養うことを目指した。その結果、教員になった際に扱いたい教授法はどちらを検討する中で、簡易であることや仕上がりの美しさの他に生徒の動機づけについても考慮しながら両者について比較していた。</p> <p>末弘由佳理、白坂文、吉井美奈子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 27. 被服製作実習授業におけるICT教材活用の可能性 | 共 | 2019年9月 | 2019年度 私情協教育イノベーション大会資料pp. 278-279 | <p>家庭科の授業時間は削減される一方で、特に実習科目については時間が十分に取れないことに加え、教員の力量差が問題視されている。小中高の教員が使いやすいICTを利用した被服実習教材を作成し、教員養成系大学の学生たちに試行させて調査を行ったものである。調査対象者の基礎縫いの力の差が大きく、ICTによる補助教材の必要性が示唆された。</p> <p>吉井美奈子、末弘由佳理 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 28. 3Dバーチャルフィッティングソフト導入によるパターンメイキング力向上への効果 | 共 | 2019年9月 | 2019年度 私情協教育イノベーション大会資料pp. 198-199 | <p>3Dバーチャルフィッティングソフト導入によるアパレルCADの教育効果を検証した。受講生を対象に、3Dバーチャルフィッティングソフト導入によるメリットなどを質問した。約8割の学生が、平面で想像したものと3D着装の状態とでは差があったと回答し、また、3D着装状態で確認したことで修正箇所が把握できたこと、3D着装がパターンメイキングの向上の手助けとなったと8割以上が回答しており、本ソフトが学生にとってパターンメイキング力を向上させるために必要な役割を果たしたことが示唆された。</p> <p>末弘由佳理、池田仁美、中西直美、坂田彩美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 29. アパレルCAD 教育における3D バーチャルフィッティングソフトの導入効果 | 共 | 2019年6月 | 繊維製品消費科学会2019年年次大会 2019年年次大会・研究発表要旨p. 30 | <p>武庫川女子大学では、平成30年度からアパレルCADを使用するパターンメイキングの授業で3Dバーチャルフィッティングソフトを導入した。本研究では、導入によるアパレルCADの教育効果を検証した結果を報告した。</p> <p>池田仁美、末弘由佳理、中西直美、坂田彩美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 30. 中学校「家庭科」被服製作におけるデジタル教材の効果～左利き教材への応用を含めて～ | 共 | 2019年6月 | 日本家庭科教育学会第62回大会 研究発表要旨集pp. 44-45 | <p>家庭科における被服製作基本縫いのデジタル教材を作成し、その効果をみた研究である。昨今の生活・学習環境下において、教員の被服製作スキルの低下や、制作実習時間の減少などを要因として、授業時間内に十分に被服製作スキルを身につけられない、作品が完成できない等の弊害が出てきている。特に、本研究では、左利き生徒の被服実習への影響を考え、左利き教材を作成し、応用することを検討した。</p> <p>末弘由佳理、吉井美奈子、藤澤泰行 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 31. 客観評価式を指標とした紙おむつ用トップシートのしっとり感 | 共 | 2019年5月25日 | 日本家政学会第71回大会 日本家政学会第71回大会研究発表要旨集p. 114 | <p>紙おむつの「しっとり」を数値化し、「しっとり」が強く、肌触りの良い紙おむつを明確化することを目的とする。市販されている乳幼児用紙おむつ、テープ型Lサイズのトップシート9種(6社)を試料とした。KESシステムにより、表面特性(表面摩擦抵抗、摩擦係数)、圧縮特性、曲げ特性、せん断特性、最大熱流束q_{max}、通気抵抗を測定した。自身が作成した「しっとり」の客観評価式から紙おむつの動作にそぐわないと考えられるせん断の特性値を除いた評価式を作成し、「しっとり」風合い値を算出した結果、最も「しと</p> |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-------------|---|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 32. ダーツの縫い始め位置の違いが仕上がりに与える影響 | 共 | 2018年11月24日 | 日本家政学会関西支部第40回研究発表会 研究発表要旨集 2018年度p. 13 | り」の強い紙おむつトップシートは、表面に若干の摩擦抵抗があり、圧縮においてやわらかく、接触冷温感の温かいものであった。 末弘由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 縫い易く、きれいに仕上げることのできるダーツの縫製方法について検討することを目的とした。被服構成学実習の履修者130名を対象として、ダーツ口・先のそれぞれを縫い始め位置としてダーツ縫いを実施し、縫い易さ及び完成度自己評価について5段階評定でアンケート調査を行った。また、縫製したダーツ縫いのダーツ口・先のずれ量及び直線縫いのずれ量を計測し、開始位置による仕上がりの差について検証した。アンケート調査結果、ずれ量をそれぞれダーツ口・先から縫い始めた場合の2グループをノンパラメトリック手法ウィルコクソンの順位和検定を用いて解析した結果、ダーツ先のずれ量X・Y方向、直線縫いのずれ量の3項目は、いずれも1%水準で有意差がみられた。これらの結果から、初心者がきれいに仕上げることのできるダーツの縫い初め位置は「ダーツ先」と判断することができた。 |
| 33. 3Dバーチャルフィッティングソフトを用いたアパレルCAD教育の検討 | 共 | 2018年9月7日 | 公益社団法人私立大学情報教育協会 平成30年度 教育改革ICT戦略大会資料 pp. 244-245 | 末弘由佳理, 白坂文 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 アパレルCAD分野における3Dバーチャルフィッティングソフトは、シルエットやディテールをコンピュータの画面上でシミュレーションし、着装状態をチェックすることのできるソフトである。 本稿では、武庫川女子大学短期大学部生活造形学科アパレルコースで開講している「アパレルCAD実習」において受講生が同一のデザイン画から作図したパターン形状（2D）及びデジタルトワル（3D）を比較し、検証した結果を報告した。 |
| 34. 布の触感「しっとり」に関する評価 | 共 | 2018年5月27日 | 日本家政学会第70回大会 日本家政学会第70回大会研究発表要旨集 | 末弘由佳理, 池田仁美, 中西直美, 坂田彩美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 布の「しっとり」の客観評価式の確立を目指す上で、布の「しっとり」を数値化し、他の触感との寄与を明確化することを目的とする。「しっとり」に関する研究に用いた布45種を本研究の試料として、女子大生49名を対象に、SD法（7段階評定）により、「しっとり」「やわらかさ」「あたたかさ」「なめらかさ」「肌触りのよさ」「厚さ」について官能検査を実施した。重回帰分析により得られた係数から、「しっとり」に最も高く寄与する触感は「肌触りのよさ」であり、「やわらかさ」は「なめらかさ」、「あたたかさ」は「厚さ」、「なめらかさ」は「肌触りのよさ」、「肌触りのよさ」は「なめらかさ」、「厚さ」は「あたたかさ」がそれぞれ最も高く寄与する触感であった。 |
| 35. Influence of the brand name and the price on evaluating in “shittori” for baby’ s underwear | 共 | 2017年9月14日 | 45th Textile Research Symposium 2017 Book of Abstracts of The 45th Textile Research Symposium 2017, p. 77 | 末弘由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 ブランド名、価格が触覚に与える影響を検討することを目的とした。日本の子供服ハイブランド2社を含め、6種の新生児肌着を試料とした。順位法により、「しっとり」「肌触りのよさ」「やわらかさ」「あたたかさ」「なめらかさ」「購入」「厚さ」について、ブランド名と価格を開示・非開示の2種の方法で触感評価を行った。ハイブランド2社の新生児肌着は全ての項目において、非開示の評価よりも順位が上昇した。ハイブランドの肌着において、1社は「購入」、もう1社は「あたたかさ」「なめらかさ」で開示・非開示間の順位に、「しっとり」においては、ハイブランド以外の肌着1種に有意差が生じたが、総体的にはブランド名及び価格による評価にはならず、触感により判断していることが分かった。 |
| 36. 新生児肌着のしっとり感とブランド及び価格との関係 | 共 | 2017年5月28日 | 日本家政学会第69回大会 日本家政学会第69回大会研究発表要旨集 | 末弘由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 ブランド名と価格を明示して新生児肌着の触感評価を行い、ブランド名、価格が触覚に与える影響を検討することを目的とする。日本の子供服ハイブランド2社の新生児肌着、子育て経験者に対する使用した新生児肌着調査の結果、上位3種、オンラインショップ売れ筋ラ |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-------------|--|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 37. アパレルCADを用いた半自動作図の提案 | 共 | 2017年2月15日 | <p>旨集p.145</p> <p>第1回武庫川女子大学研究成果の社会還元促進に関する発表会 pp.9-16</p> | <p>ンキング上位7種の中で最も「しっとり」の強い試料1種の計6種を試料とした。順位法により、「しっとり」「肌触りのよさ」「やわらかさ」「あたたかさ」「なめらかさ」「購入」「厚さ」について官能検査を実施した。ハイブランド2社の新生児肌着は全ての項目において、非開示の評価よりも順位が上昇した。ハイブランドの肌着において、1社は「購入」、もう1社は「あたたかさ」「なめらかさ」で開示・非開示間の順位に、「しっとり」においては、ハイブランド以外の肌着1種に有意差が生じた。</p> <p>末弘由佳理、鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> <p>アパレルCADシステムに搭載される自動作図の婦人原型から部分的に修正を加えて子供原型に展開する作図法「半自動作図」を考案した。自動作図による婦人原型のバストサイズを作図したい子供原型サイズのバストから調整したものを基にして、修正展開することで近似的な子供原型を作成することができた。その調整寸法は、作図したい子供サイズから8cmマイナスしたバストサイズで作図した婦人原型であり、変更箇所を最小限に収めることが可能であった。子供原型、婦人原型をそれぞれ作図する上での算出式の差を考慮し、子供原型に展開するための移動量の理論値を導くことができた。</p> <p>末弘由佳理、池田仁美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 38. アパレルCADによる半自動作図の提案— 婦人原型から子供原型への展開 — | 共 | 2016年10月30日 | <p>日本家政学会関西支部第38回研究発表会 研究発表要旨集 2016年度p.10</p> | <p>CADシステム搭載の自動作図機能による婦人身頃原型をベースに用いて、部分的に修正を加えて子供原型を作成する「半自動作図」の可能性について検証を行った。子供原型のバストに定寸法を加えた寸法で婦人原型を作図することで、同一寸法で作図できる部分が存在する。X軸方向の割出し式で作図する部分について婦人原型のバスト寸法を調整する方法を2点（調整寸法をプラス4cm、マイナス8cm）考案した。展開する際に、修正箇所が最も少ないのは、マイナス8cmの方であった。子供・婦人原型の各箇所の計算式を用いて、移動量の算出を試みた結果、必要な箇所全ての移動量の理論値を導くことができ、婦人原型をベースに子供原型へ展開する「半自動作図」の可能性が示唆された。</p> <p>末弘由佳理、池田仁美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 39. 被服教育における「基礎縫い」デジタル教材の開発とその効果 | 共 | 2016年9月 | <p>公益社団法人私立大学情報教育協会</p> <p>平成28年度 教育改革ICT戦略大会 平成28年度 教育改革ICT戦略大会資料 p.210-211</p> | <p>縫製技術の基礎となるテクニックについてデジタル教材の学習効果を明らかにすることを目的として、被服構成学実習の基礎科目を履修学生をを対象に基礎縫いの課題に対する補助教材（教科書、完成見本、デジタル教材）の使用実態及び理解度に関するアンケートを実施した。また、作品の完成度の変化を明らかにするため、4年分（デジタル教材有無各2ヶ年）の作品採点結果を比較した。補助教材の使用数比較では、大多数の縫い方に関して3種類すべてを使用した学生が多かった。第一作品の採点において、デジタル教材の有無の間に1%水準の有意な差が生じた。</p> <p>末弘由佳理、本田クミ、大西かおり、中尾時枝 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 40. 編布を用いた新生児肌着のしっとり感 | 共 | 2016年5月 | <p>日本家政学会第68回大会 日本家政学会第68回大会研究発表要旨集p.95</p> | <p>日本の子供服ハイブランドである2社の新生児肌着、子育て経験者評価による上位3種、オンラインショップ売れ筋ランキング上位7種の中で最も「しっとり」の強い1種の計6種を試料とした。女子大生20名を対象に、順位法により「しっとり」「肌触りのよさ」「やわらかさ」「あたたかさ」「なめらかさ」について官能検査を実施した。KESシステムにより表面特性（表面摩擦抵抗、摩擦係数）、圧縮特性、曲げ特性、せん断特性、引っ張り特性、最大熱流束qmax、通気抵抗を測定した。官能検査の結果、順位に1%水準の有意差が認められた。最も「しっとり」を強く感じた試料は「なめらかさ」「やわらかさ」「肌触りの良さ」においても強い感覚を有していた。物性との関係は、圧縮仕事量の値が高いほど、「しっとり」が強く、圧縮やわらかい肌着が「しっとり」を強く備えているという結果であった。</p> <p>末弘由佳理、鋤柄佐千子</p> |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------|---|---|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 41. 被服構成学実習におけるデジタル教材活用の効果－「基礎縫い」を中心に－ | 共 | 2015年10月 | 日本家政学会関西支部第37回研究発表会 研究発表要旨集 2015年度p.21 | 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 縫製技術の基礎テクニックについてデジタル教材の学習効果を明らかにすることを目的とした。被服構成学実習の基礎科目を履修した学生計301名を対象に基礎縫いの課題に対する補助教材（教科書、完成見本、デジタル教材）の使用実態及び理解度に関するアンケートを実施した。また、作品2点の完成度の変化を明らかにするため、4年分（デジタル教材有無各2ヶ年）の作品採点結果を比較した。アンケート結果から、受講前に50%以上の学生が「縫うことができない」と回答したテクニックに関してデジタル教材の使用率が高く、補助教材の使用では、大多数の縫い方に関して3種類すべてを使用した学生が多かった。また、4ヶ年の作品比較では、デジタル教材を使用した年度において修正が必要な個所が減少したことから一定の効果があったことが示唆される。 本田クミ、末弘由佳理、大西かおり、中尾時枝 |
| 42. 新生児肌着のしっとり感に関する研究 | 共 | 2015年10月 | 日本家政学会関西支部第37回研究発表会 研究発表要旨集 2015年度p.12 | 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 新生児肌着において「しっとり」という触感重要な感覚であるか、また、どの物性が「しっとり」に強く関わっているかを明らかにすることを目的とした。オンラインショップ楽天市場に、新生児短肌着の売れ筋人気ランキングにおいての上位7種を試料とした。順位法により、「しっとり」「肌触りのよさ」「やわらかさ」「あたたかさ」「なめらかさ」について感覚の強い順に並べた。次に、KESシステムにより、風合いに関わる16個の物理量及び最大熱流束qmax、通気抵抗を測定した。官能検査の結果、全項目において順位に有意差が認められた。最も「しっとり」を強く感じた試料は、「肌触りのよさ」「やわらかさ」「あたたかさ」「なめらかさ」においても強い感覚が得られた。物性との関係はせん断かたく、曲げやわらかく、編目密度の高い肌着において、「しっとり」の感覚が強く得られた。 末弘由佳理、鋤柄佐千子 |
| 43. 被服構成学実習におけるデジタル教材活用に関する研究－「基礎縫い」を中心に－ | 共 | 2013年10月 | 日本家政学会関西支部第35回研究発表会 研究発表要旨集 2013年度p.19 | 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 縫製技術の基礎となるテクニック（20種類）について反復学習が可能なデジタル教材（動画、音声、説明文、写真およびイラスト含む）を作成し、自主学習において有効な教材であることを明らかにすることを目的とした。アンケート結果から、受講前に50%以上の学生が「縫うことができない」と回答した12種類中「千鳥がけ」「ブランケットステッチ」「袋縫い」「折り伏せ縫い」「流しまつり」「パイアステープの裁ち方」「パイアス布の始末」「切りじつけ」の8種類に関しては、補助教材のうち「デジタル教材」の理解度が最も高かった。これは、教科書や完成見本のような活字や静止画などの情報だけではなく、動画や音声も含まれているため、より理解しやすく自主学習に有効な教材であったと考えられる。 本田クミ、末弘由佳理、大西かおり、中尾時枝 |
| 44. 被服教育における電子教材の開発－原型製図を中心に－ | 共 | 2013年9月 | 公益社団法人私立大学情報教育協会 平成25年度 教育改革ICT戦略大会 平成25年度 教育改革ICT戦略大会資料 p.240-241 | 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 武庫川女子大学では、教員の授業と学生の学習活動を活性化させるため、電子教材作成ツールMmoa（モア）を活用し、動画を含む教育用コンテンツのデジタル教材開発に取り組んでいる。平成23年度、そのツールを利用して、学生にわかりやすく課外の予習・復習にも役立つ被服構成学分野における製図教材を作成した。 作成した教材を身頃原型製図を中心に紹介し、e-Learningとして使用した本教材の使用後のアンケートから、授業だけでは学生の理解が難しかった学習内容を作成したe-Learningを使用することで学生の理解が上がったことを報告したものである。 末弘由佳理、岡田由紀子 |
| 45. 日本語表現による布の風合い「しっとり」の英語表現の選定 | 共 | 2013年5月 | 日本家政学会第65回大会 日本家政学会第65回大会研究発表要旨集p.161 | 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 外国人に日本語である「しっとり」の感覚を正確に伝える語を提案することを目指して、まず、「Baby's skinから連想する形容語」を収集し、15語を選定した。次にそれらの語を用いて“Baby's skin”と「しっとり」の関係についてアンケート調査を行った。触感評価においては、表面に毛羽を有する布7種を用いて、“Baby's |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|--|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 46. ドラフティングにおけるデジタル教材の開発とその効果 | 単 | 2012年10月 | 日本家政学会関西支部第34回研究発表会 研究発表要旨集 2012年度p. 16 | skin”と「しっとり」に分け、順位法を用いた官能検査を実施した。用語に関する調査の結果、15語中9語に関しては“Baby’s skin”と「しっとり」の間に有意差は見られなかった。布の官能検査では、最も触感覚の強い布同士の間にも有意差はなく、“Baby’s skin”と「しっとり」は布の触感評価をする際の感性語として類似しているものとの判断が可能であった。 末弘由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 高等学校の家庭科教育において、被服製作分野が含まれていない「家庭基礎」を履修して大学に進学する割合が約半数近い。大学の被服構成学を学習する上で、体験不足などから初期段階でのつまづきが目立つ現状がある。原型製図においても同様であり、そのためパワーポイントを用いたデジタル製図教材を開発し、学生アンケートより理解を促す効果が高い教材であることを明らかにしたが、その教材を基にして、各自が自分のペースで予習復習することのできるe-ラーニング教材へと発展させた。学生アンケートより復習として役立つものであること、自分のペースで学習することにより、理解が深まることが確認できた。 なお、この発表は、日本家政学会関西支部若手優秀発表賞を受賞した。 |
| 47. ドラフティングにおけるデジタル教材の開発（ポスター発表） | 単 | 2011年08月 | 平成23年度被服構成学学会夏期セミナー 日本家政学会被服構成学学会夏期セミナー要旨集p. 48 | 大学において、被服構成学を学ぶ初期段階として、原型製図を扱うことが多いが、製図学習を進める際の教材として、パワーポイントを用いたデジタル教材を開発した。学習者対象のアンケート調査から、デジタル教材による製図学習は理解度が高く、又、その他の方法（板書による説明、教科書等からの解説）との比較においても約80%が「分かりやすい」と答え、デジタル教材は、学生の理解を促す効果が高い教材であることを明らかにした。 |
| 48. ニットのしっとり感に及ぼす編目密度の影響 | 共 | 2011年05月 | 日本家政学会第63回大会 日本家政学会第63回大会研究発表要旨集p. 150 | また、現在制作中のe-ラーニング教材についても併せて紹介した。編目密度の異なるニットを試料として日本人と中国人を対象に、一対比較法により、「しっとり」「やわらかさ」「厚さ」「好み」について官能検査を実施した。日本人が最も「しっとりしない」と感じたのは、密度の最も低い試料であり、中国人においては密度が最も高い試料であった。「しっとり」と「好み」との関係は、日本人は最も「しっとり」と最も「好き」が同試料であったが、中国人が最も「しっとり」と答えた試料は「好み」においては中間に位置し、国による差が見られた。また、圧縮やわらかさとの関係が深い圧縮仕事量及び布の厚さについては、実際に厚い試料を薄いと感知し、薄い試料を厚いと感知するという数値とは異なる結果となった。 |
| 49. 編み布の「しっとり感」に与える構造の影響 | 共 | 2011年05月 | 日本繊維機械学会第64回年次大会 日本繊維機械学会第64回年次大会研究発表論文集p. 220-221 | 末弘由佳理, 坂本有璃子, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 心地良い風合いをイメージさせる「しっとり」の要因を明確化することにより、布の風合い評価の新しい指標を日本のみならず諸外国においても確立することを目標にしている。本研究の試料として用いた編み布は、ループの密度や編み構造によって、表面のなめらかさが変化することが考えられる。そこで、編み構造や、表面のピル形状などの異なる編み布を用いて「しっとり感」及び、関連する感性語を用いた官能検査を日本と香港の学生に対して行い、官能検査結果と物性値を分析することで、「しっとり感」の要因を明確化することを目的とした。分析結果より、表面に起毛や長いカットパイルなどの特徴を有している布において、ループパイルや短いカットパイルなどと比較し、しっとり感が強く感じられることがわかった。 |
| 50. Measurement of Skin touch feel for Fabric “Shittori” based | 共 | 2010年11月 | The Textile Institute World Conference 2010, Manchester UK | 坂本有璃子, 末弘由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 日本語の「しっとり」は化粧品を皮膚に塗布した際に一般的に用いられる言葉である。この感覚は消費者にとって快適で好ましいものとして認められており、布における「しっとり」は、滑らかで、あたたかくてやわらかいものであることが分かっている。 KES-Fシス |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|--|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 51. デジタル教材を用いた製図学習の効果 (on the thermal transfer (ポスター発表)) | 単 | 2010年10月 | The Textile Institute Centenary Conference Proceedings, pp. 1-12 日本家政学会関西支部第32回研究発表会 研究発表要旨集 2010年度p.24 | テムを用いて物性を測定し、更に測色計を用いて色の測定を行った。布の触感評価は色の影響がゼロではないが、触覚によるものが大きいことが分かった。より強い「しっとり」知覚は、最大熱流束(qmax)の値が小さく接触冷温感があたたかいこと、摩擦係数及び圧縮エネルギーの値が大きいことと相関があった。中でも、「しっとり」にとって最も重要なパラメータは最大熱流束(qmax)であった。 末弘由佳理, 鋤柄佐千子, 與倉弘子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 52. 衣服領域からの食の教育-食育ファッションショーの試み- (ポスター発表) | 共 | 2010年05月 | 日本家政学会第62回大会 日本家政学会第62回大会研究発表要旨集p.61 | 平成15年度施行の高等学校学習指導要領では、家庭科において「家庭基礎」が加わり、「家庭総合」「生活技術」の中から1科目を選択必須する形となった。「家庭基礎」には被服製作分野が含まれておらず、高等学校で被服製作を履修せずに被服系の学部・学科に入学している大学生も少なくないのが現状である。大学において、被服構成学を学ぶ初期段階として、原型製図を扱うことが多いが、製図学習を進める際の教材として、パワーポイントを用いたデジタル教材を開発し、学習者対象のアンケート調査から、デジタル教材による製図学習は理解度が高く、又、その他の方法(板書による説明, 教科書等からの解説)との比較においても約70%が「分かりやすい」と答え、デジタル教材は、学生の理解を促す効果が高い教材であることを明らかにした。 |
| 53. フェイクファーのしっとり感評価 | 共 | 2010年05月 | 日本家政学会第62回大会 日本家政学会第62回大会研究発表要旨集p.115 | 2009年5月に開催された食の祭典「'09食博覧会・大阪」において、衣生活分野からのアプローチにより食育を学ぶことを目的として、「食育ファッションショー」を試みた。武庫川女子大学生生活環境学科の学生が中心となり、企画、デザイン・制作を行い、モデルやアナウンスも全て学生(総勢47名)が担当した。3回公演は全て満席となり、児童・生徒に食とは異なる分野からの食育がアピールできたと言える。この研究は、ショーの成果をまとめたものである。 本田クミ, 寺嶋愛, 末弘由佳理, 中尾時枝 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 54. 布のしっとり感における視覚・触覚の関係 (ポスター発表) | 共 | 2009年11月 | 日本繊維機械学会第16回秋季セミナー『明日のタネ』 ポスター要旨集 pp.77-78 | 表面の毛の方向が容易に変化する、毛の動き易い布であるフェイクファーを試料として、一対比較法により、「しっとり」、「毛の動き易さ」、「なめらかさ」、「心地よさ」の4項目について官能検査を実施した。官能検査の結果、「しっとり」と高い相関関係を示した項目は「毛の動き易さ」と「心地よさ」であった。動き易い毛を有する場合、「しっとり」の感覚が強くなり、また、「しっとり」の感覚は心地のよい感覚であることが明らかになった。「しっとり」は、表面摩擦の水平方向への抵抗値、温度変化微分値、圧縮仕事量、圧縮レジリエンスと関係が深く、水平方向への摩擦抵抗が大きく、接触冷温感があたたかく、圧縮やわらかく、反発性が高くない感覚に対して「しっとり」の感覚が強く得られた。 末弘由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 55. The relations of vision and tactile sensation for "shittori" characteristic of fabrics. (ポスター発表) | 共 | 2009年09月 | The 38th Textile Research Symposium at Mt. Fuji EXTENDED ABSTRACTS OF | 「しっとり」を強く感じる布を2種各6色計12種類、布に類似したカラーカードを試料とした。カラーカードによる視感評価では、くすみ強いほどしっとり感を強く感じる色であり、クラスター分析によってグループ分けした結果、色で表現される「しっとり」は「暗い」「くすんだ」「重い」の3つのイメージと同じクラスターに分類された。布試料における官能検査の結果、同組成色違いの布でありながら、有意差が生じたことから、触感には視覚情報(色)が影響していることが明らかになった。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------|--|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 56. 布のしっとり感における視覚・触覚の関係 | 共 | 2009年08月 | THE 38th TEXTILE RESEARCH SYMPOSIUM AT MT. FUJI, P3 日本家政学会第61回大会 日本家政学会第61回大会研究発表要旨集p.141 | 方向の抵抗が関係することが明らかになった。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 布に対して抱く触感覚評価において、視覚が及ぼす影響を明らかにし、「しっとり」の感覚に及ぼす色の影響を明確化することを目的とした。同組成の布6色を試料とし、「やわらかい」「あたたかい」「しっとり」の3項目をそれぞれ一対比較法により、官能検査を行った。各試料の色においては、分光測色計を用いて、明度、色度、彩度を測し、官能評価との関係を分析した。官能検査の結果、3項目全てにおいて、主効果で1%の有意差があり、触感には視覚情報(色)が影響していることが明らかになった。又、測色データにおいては、明度の値が大きい試料は「しっとり」を強く感じず、L*a*b*表色系によるc*の値が大きい試料は「しっとり」を強く感じるという結果が得られた。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 57. 噴霧に対する感覚の評価 | 共 | 2008年08月 | 第17回繊維連合研究発表会 第17回繊維連合研究発表会講演予稿集p.99 | エアゾールスプレー(配合物:水・エタノール)を肌に噴霧した時、冷たさを覚えるが、ここではその感覚における「心地よい冷たさ」と「しっとり感」について検討を行った。物性値として、熱板にスプレーを噴霧した際のヒートロス、及び、表面温度を測定した。また官能検査においては、スプレー直後と1分後の「冷たさ」「心地よさ」、1分後の「しっとり感」を質問し、同時にサーモグラフィを用いて皮膚表面の温度を測定した。瞬時の冷たさ及び1分後の冷たさにおいて感覚が強い試料は水を多く含むものであったが、「心地よさ」の感覚は低かった。しっとり感においては春と夏とでは官能検査の結果が異なり、夏よりも春の方が水分の多い試料において「しっとり」が強く感じられた。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 58. Cool feeling produced by aerosol spray and its application to fabrics | 共 | 2008年08月 | The 37th Textile Research Symposium in Daegu EXTENDED ABSTRACTS OF THE 37th TEXTILE RESEARCH SYMPOSIUM AT MT. FUJI, 26 | エアゾールスプレーを肌に噴霧した時、冷たさを覚えるが、ここではその感覚における「心地よい冷たさ」と「しっとり感」について検討を行った。物性値として、熱板にスプレーを噴霧した際のヒートロス、及び、表面温度を測定した。また官能検査においては、スプレー直後と1分後の「冷たさ」「心地よさ」、1分後の「しっとり感」を質問し、同時にサーモグラフィを用いて皮膚表面の温度を測定した。又、パンティーストッキングの上からスプレーを噴霧した際の官能検査も実施した。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 59. 噴霧による冷温感覚の評価 | 共 | 2008年05月 | 日本家政学会第60回大会 日本家政学会第60回大会研究発表要旨集p.194 | エアゾールスプレー(配合物:水・エタノール)を肌に噴霧した時、冷たさを覚えるが、ここではその感覚における「心地よい冷たさ」と「しっとり感」について検討を行った。物性値として、熱板にスプレーを噴霧した際のヒートロス、及び、表面温度を測定した。また官能検査においては、スプレー直後と1分後の「冷たさ」「心地よさ」、1分後の「しっとり感」を質問し、同時にサーモグラフィを用いて皮膚表面の温度を測定した。瞬時の冷たさ及び1分後の冷たさにおいて感覚が強い試料は水を多く含むものであったが、「心地よさ」の感覚は低かった。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 |
| 60. 客観評価を主にした布の「しっとり感」 | 共 | 2007年10月 | 繊維学会秋季研究発表会 繊維学会予稿集 2007 62巻3号(秋季研究発表会) | 物性値として、最大熱流量が小さく、圧縮仕事量、厚さ、曲げヒステリシスの値が大きい試料が「しっとり」を強く感じる事が分かった。織物においては、糸が細く、織密度の高い試料が「しっとり」がより強く感じられ、組成だけではなく、構造との関係が深いことが推察される。又、布の「しっとり」は、化粧品における「しっとり」のキーワードである「保湿(=水分のある状態)」と |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|------------|---|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 61. Hand Evaluation for "Shittori" Characteristic of Fabrics (ポスター発表) | 共 | 2007年08月 | The 36th Textile Research Symposium at Mt. Fuji EXTENDED ABSTRACTS OF THE 36th TEXTILE RESEARCH SYMPOSIUM AT MT. FUJI, P7 | <p>は異なることが明らかになった。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> <p>布の「しっとり感」は布のやわらかさや温かさと関係が深いことが官能検査の結果から分かっている。化粧品における「しっとり感」は保湿と密接な関係があるが、布においては保湿とは関係がないことが水分率の測定から明らかになり、繊維の細さだけではなく糸の細いもの、更には繊維表面に毛羽を有する布が「しっとり」をより強く感じるということが明らかになった。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 62. Hand Evaluation for "Shittori" Characteristic of Fabrics | 共 | 2007年08月 | The 4th International Symposium for Materials & Kansei in Textiles-Fashion | <p>触覚の一つに「しっとり」という感覚がある。布の風合いにおけるしっとり感において、主観・客観の評価から、特性値化するための指針を明確化することを目的とした。しっとり感をより強く感じる布は、摩擦係数が小さく滑らかな表面を持つ布であり、糸が細く、織密度が高いもの、最大熱流量q_{max}の値が小さいもの、圧縮仕事量、曲げヒステリシス、厚さの値が大きいものであることが分かった。また、布表面に細い毛羽のある布において、しっとり感が強く感じられた。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 63. 手触りによる布のしっとり感評価 | 共 | 2007年05月 | 日本家政学会第59回大会 日本家政学会第59回大会研究発表要旨集p.199 | <p>人間の触覚の一つに「しっとり」という感覚がある。一般的に我々は「しっとり」という言葉の認識はあるものの、特に布に対する評価においては、曖昧な言葉として認識される場合が多い。しかしながら、高付加価値な布の風合いを創り出す上で興味ある感覚であると考え。そこで布に対して抱く「しっとり」という感覚評価を主観・客観的に分析し、特性値化するための指針を明確化することを目的とした。官能評価の結果、繊維が細く、織密度が高いもの、又、最大熱流量q_{max}の値が小さいもの、圧縮仕事量、曲げヒステリシス、厚さの値が大きいものを「しっとり」と強く感じるということが分かった。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> |
| 64. 高等学校家庭科における教材開発－生徒の個性を生かす被服製作実習－ | 単 | 2006年05月 | 日本家政学会第58回大会 日本家政学会第58回大会研究発表要旨集p.206 | <p>高等学校の類別化、小・中学校における既習内容の違いによる個人差、生活体験の不足等から、学習指導要領通りの内容実施が困難であること、又、過去の実施結果による反省点から、生徒の現状に即した新しい教材開発を考案することの重要性を感じた。対象となる生徒に合わせた教育目標を立て、提案した実習題材は、その教育目標を達成することが可能な題材として、有効であることが確認できた。</p> |
| 3. 総説 | | | | |
| 4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績 | | | | |
| 1. NDK60周年記念ファッションショー | 単 | 2018年9月14日 | NDK日本デザイン協会 | <p>スカートを立体的に仕上げ丸いフォルムにするため、身頃は高い位置でのハイウエストとした。、高いを強調するため、中広のウエストベルトを作成し、胸元から首ぐりに伸びるホルターネックとした。スカートには表布として張りのあるものを用いたが、より張りを出すためにハードチュールを裏打ちし、身頃との接ぎ目はタックを用いた。本作品においては裏布は見えない設計であるが、黒字に大きな白ドット柄の裏布を用い、隠れた箇所にも気持ちをこめることを重視した。裾には帯状の布を用いてスカートの丸みを吸収するデザインとしたが、裏打ちをしたスカートを保つために帯状の布の上部と下部にベルト芯を縫い付けた。</p> |
| 2. 第83回NDKファッションショー | 単 | 2015年9月 | NDK日本デザイン協会 | <p>ショーテーマは「REACH FOR THE FUTURE 未来へ届け 復活の扉」である。 身頃はウエストを強調するため、中広のウエストベルトを作成し、</p> |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--------------------------|---------|-----------|---------------------------------|---|
| 4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績 | | | | |
| 3. 第2回NDK会員作品展示会 | 単 | 2011年10月 | 第2回NDK会員作品展示会（於：アートギャラリーAshiya） | 胸元から首ぐりに伸びるホルターネックとした。胸元にはたっぷりとしたドレープを表現するため、ニットを使用し、左右にタックを入れることで意図するドレープを表すことができた。また、スカートにおいてもドレープを表現するためにベースをサーキュラとし、レース2枚、ニット2枚の4枚重ねとし、それぞれにランダムなヘムラインを出し、動きを出した。 この作品は、第83回NDKファッションショーにおける入賞（奨励賞）作品である。 出展した作品は、第79回NDKファッションショーに出品した作品である。 この作品は努力賞受賞作品である。 |
| 4. 第79回NDKファッションショー | 単 | 2011年09月 | 日本デザイン文化協会大阪支部 | ショーテーマは「REACH FOR THE FUTURE 未来へ届け 復活の扉」である。 身頃はウエストを強調するため、中広のウエストベルトを作成し、胸元から首ぐりに伸びるホルターネックとした。胸元にはたっぷりとしたドレープを表現するため、ニットを使用し、左右にタックを入れることで意図するドレープを表すことができた。また、スカートにおいてもドレープを表現するためにベースをサーキュラとし、レース2枚、ニット2枚の4枚重ねとし、それぞれにランダムなヘムラインを出し、動きを出した。 この作品は、第79回NDKファッションショーにおける入賞（努力賞）作品である。 出展した作品は、第78回NDKファッションショーに出品した作品である。 |
| 5. 第1回NDK会員作品展示会 | 単 | 2010年10月 | 第1回NDK会員作品展示会（於：アートギャラリーAshiya） | NDKファッションショー出品作品の展示を目的として、第1回展示会が開催された。 出展した作品は、第75回NDKファッションショーに出品した作品である。 この作品は努力賞受賞作品である。 |
| 6. 第1回NDK会員作品展示会 | 単 | 2010年10月 | 第1回NDK会員作品展示会（於：アートギャラリーAshiya） | ショーテーマは「Happy Moment～その瞬間を生きる～」である。 身頃は身体にフィットするビスチェ型とし、縦ラインの切り替えとした。それに対してスカートの形状をオブリークとし、8枚のパーツに分けることで、上衣から下衣に対して、斜め方向の動きを出した。スカート部のパーツ1枚置きにレースを裏打ちし、また、パーツの縦ラインをパイアステープで包むことで、各パーツを独立感のあるものとした。また、各パーツ裾の一部を長くすることで、全体としてギザギザの裾ラインを表現し、足元が淋しくなりがちなミニ丈において、それを補うデザインを心がけた。 この作品は、第78回NDKファッションショーにおける入賞（努力賞）作品である。 |
| 7. 第78回NDKファッションショー | 単 | 2010年09月 | 日本デザイン文化協会大阪支部 | ショーテーマは「On Dramatic Departure～新たなる旅立ち～」である。 マーメイドラインを基本とし、バスト下から膝上はパターンを数パーツに分けて布を変化させ、レースを用いることで優美さを表現した。華奢な印象になりがちなマーメイドラインにおいて、トレーンを長くすることでバックスタイルを強調し、ボリューム感をもたせた。フィット感のある胴体に対して、トレーンにフリルを付けることでメリハリのあるデザインとした。 |
| 8. 第77回NDKファッションショー | 単 | 2009年09月 | 日本デザイン文化協会大阪支部 | ショーテーマは「Everlasting Road～ファッションよ 永遠に～」である。 チェック柄の布は、方向を変えるだけで、様々なデザインを表現することができる。ここでは、白基調のタータンチェックに黒色の花を施した生地を使用した。シルエットはベルラインを基本に、デコルテはビスチェ、スカートは4枚接ぎのフレアとした。身頃はパイアス方向、スカートはたて方向と変化をつけたことで単調にならないように表現した。それぞれの裾にはワンウェイに畳んだプリーツを |
| 9. 第76回NDKファッションショー | 単 | 2008年09月 | 日本デザイン文化協会大阪支部 | |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|--------------------------|---------|-----------|-------------------|--|
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
| 4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績 | | | | |
| 10. 第75回NDKファッションショー | 単 | 2007年09月 | 日本デザイン文化協会大阪支部 | <p>付け、スカートには、プリーツの上部にライトを浴びると輝くスパンコールのブレードを施した。また、同素材でパラソルを作成し、ボリューム感の少ない身頃に動きを与え、全体のバランスをとった。一昨年、昨年に引き続き、遊び心を取り入れた、新しいブライダルドレスの提案である。</p> <p>この作品は、第76回NDKファッションショーにおける入賞（奨励賞）作品である。</p> <p>ショーテーマは「Dearest Wish 想いをかたちに…」である。チュールリップの花を基調とし、コンセプトは花嫁の誓いとした。チュールリップの花言葉は「永遠の愛情」であり、特に赤いチュールリップにおいては「愛の告白」を意味する。</p> <p>ドレスのシルエットは、ベルラインを基本とし、身頃はワンショルダーのビスチェ、スカートは花びらをかたどった巻きスカートとした。身頃、スカート共に端にフリルをつけ、更にラインストーンを施した。これらを施すことで、花びら一枚一枚の存在を強調することができたと言える。</p> <p>昨年の作品に引き続き、遊び心を取り入れた、新しいブライダルドレスの提案である。</p> <p>ショーテーマは「ファッションと蒼天のコラボレーション」である。</p> <p>薔薇の花を基調とし、コンセプトは花嫁の願いとした。現在、多くのブライダルドレスがあるが、形においては基本スタイルのものがほとんどである。ここでは、従来あるブライダルドレスの形から逸脱したものを提案した。シルエットとしてベルラインを基本に、デコルテはビスチェ、スカートはバルーンとした。ボディに沿ったビスチェには薔薇の花をつけ、スカートと帽子にも同じ薔薇を散りばめた。土台にはピンクのサテンを、オーバースカートには薄ピンクのチュールレースを用い、ビスチェ、スカートの裾には下方に処理を施し、動きを出した。</p> <p>遊び心を取り入れた、新しいブライダルドレスの提案である。</p> <p>この作品は、第74回NDKファッションショーにおける入賞（努力賞）作品である。</p> |
| 11. 第74回NDKファッションショー | 単 | 2006年09月 | 日本デザイン文化協会大阪支部 | <p>ショーテーマは「ファッションと蒼天のコラボレーション」である。</p> <p>薔薇の花を基調とし、コンセプトは花嫁の願いとした。現在、多くのブライダルドレスがあるが、形においては基本スタイルのものがほとんどである。ここでは、従来あるブライダルドレスの形から逸脱したものを提案した。シルエットとしてベルラインを基本に、デコルテはビスチェ、スカートはバルーンとした。ボディに沿ったビスチェには薔薇の花をつけ、スカートと帽子にも同じ薔薇を散りばめた。土台にはピンクのサテンを、オーバースカートには薄ピンクのチュールレースを用い、ビスチェ、スカートの裾には下方に処理を施し、動きを出した。</p> <p>遊び心を取り入れた、新しいブライダルドレスの提案である。</p> <p>この作品は、第74回NDKファッションショーにおける入賞（努力賞）作品である。</p> |
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |
| 6. 研究費の取得状況 | | | | |
| 1. 基盤研究（C） 継続 | 単 | 2022年 | 科学研究費 | アパレルCADシステムを用いた風合い「しっとり」の触覚と視覚評価の関係 |
| 2. 基盤研究（C） 継続 | 単 | 2021年 | 科学研究費 | アパレルCADシステムを用いた風合い「しっとり」の触覚と視覚評価の関係 |
| 3. 基盤研究（C） 継続 | 単 | 2020年 | 科学研究費 | アパレルCADシステムを用いた風合い「しっとり」の触覚と視覚評価の関係 |
| 4. 基盤研究（C） 新規 | 単 | 2019年 | 科学研究費 | アパレルCADシステムを用いた風合い「しっとり」の触覚と視覚評価の関係 |
| 5. 若手研究（B） 継続 | 単 | 2016年 | 科学研究費 | 布の「しっとり」に関する素材物性を用いた評価尺度の構築 |
| 6. 若手研究（B） 継続 | 単 | 2015年 | 科学研究費 | 布の「しっとり」に関する素材物性を用いた評価尺度の構築 |
| 7. 若手研究（B） 新規 | 単 | 2013年 | 科学研究費 | 布の「しっとり」に関する素材物性を用いた評価尺度の構築 |
| 8. 若手研究（B） 継続 | 単 | 2012年 | 科学研究費 | 布の「しっとり」感に関する素材物性の客観評価 |
| 9. 若手研究（B） 継続 | 単 | 2011年 | 科学研究費 | 布の「しっとり」感に関する素材物性の客観評価 |
| 10. 若手研究（B） 新規 | 単 | 2010年 | 科学研究費 | 布の「しっとり」感に関する素材物性の客観評価 |
| 学会及び社会における活動等 | | | | |
| 年月日 | | 事項 | | |
| 1. 2019年4月～現在 | | 日本家庭科教育学会 | | |

学会及び社会における活動等

| 年月日 | 事項 |
|--------------------|-------------|
| 6. 研究費の取得状況 | |
| 2. 2009年7月～現在 | 繊維学会 |
| 3. 2007年10月～現在 | 日本繊維機械学会 |
| 4. 2006年3月～現在 | 奈良女子大学家政学会 |
| 5. 2006年1月～現在 | 日本デザイン文化協会 |
| 6. 2005年4月～現在 | 日本繊維製品消費科学会 |
| 7. 2005年4月～現在 | 日本家政学会 |